

東京医科歯科大学教養部

# 教 育 要 項

## — 教養教育 —

医学部医学科 3 年

歯学部歯学科 3 年



2024

# 目次

2024年度医歯学融合教育（教養教育）	1
教養教育	2
主題別選択Ⅱ	10
主題別選択Ⅱ（科学と疑似科学の境界）	11
主題別選択Ⅱ（環境への適応）	13
主題別選択Ⅱ（物理数学演習）	15
主題別選択Ⅱ（食品の科学）	17
主題別選択Ⅱ（生物の中の糖）	19
主題別選択Ⅱ（生物間のコミュニケーション）	21
主題別選択Ⅱ（医療の社会学）	23
主題別選択Ⅱ（植物の科学）	25
主題別選択Ⅱ（現代社会と時間）	27
主題別選択Ⅱ（ドロマロジーと人間）	29
主題別選択Ⅱ（微分方程式演習）	31
主題別選択Ⅱ（タンパク質科学の光と影）	33
主題別選択Ⅱ（生命科学と医学）	35
主題別選択Ⅱ（危険物の科学）	37
主題別選択Ⅱ（民主主義を再考する）	39
主題別選択Ⅱ（医歯系のための物理）	41
主題別選択Ⅱ（人体・医療の物理）	43
主題別選択Ⅱ（小説の言語と演劇の言語）	45
主題別選択Ⅱ（発がんと確率過程）	47
主題別選択Ⅱ（視覚情報と言語）	49
主題別選択Ⅱ（数理で理解する発がん）	51
主題別選択Ⅱ（外国につながる多様な人々と医療）	53
主題別選択Ⅱ（外国につながる多様な人々と教育）	55
主題別選択Ⅱ（医療行動経済学における患者の意思決定）	57
主題別選択Ⅱ（医療行動経済学における医療者の意思決定）	59
主題別選択Ⅱ（生命科学と社会）	61
主題別選択Ⅱ（科学的な正しさとは何か）	63
主題別人文社会科学セミナー・講義	65
医学科・歯学科（3年生）：主題別人文社会科学セミナー・講義スケジュール	66
人文社会科学講義（医療と社会）	67
人文社会科学講義（医療と法）	69
主題別人文社会科学セミナー（文化と人間）	71
主題別人文社会科学セミナー（生命と人間）	74
主題別人文社会科学セミナー（言語と人間）	77

主題別人文社会科学セミナー(制度と人間) .....	79
主題別人文社会科学セミナー(時間と人間) .....	82
東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 .....	85

## 2024年度医歯学融合教育(教養教育)

2024年度医歯学融合教育(教養教育)								
●医学科・歯学科(3年生)								
月日	曜日	回数	1時限(9:00~9:50)	2時限(10:05~10:55)	3時限(11:10~12:00)			
4月4日	木	1		主題別選択Ⅱ(前半) Zoom	主題別人文社会科学セミナー (前期:前半) Zoom			
4月11日	木	2						
4月18日	木	3						
4月25日	木	4						
5月2日	木	5						
5月9日	木	6						
5月16日	木	7						
5月23日	木	8						
5月30日	木	9				主題別選択Ⅱ(後半) Zoom	主題別人文社会科学セミナー (前期:後半) Zoom	
6月6日	木			専門科目				
6月13日	木	10		主題別選択Ⅱ(後半) Zoom	主題別人文社会科学セミナー (前期:後半) Zoom			
6月20日	木	11						
6月27日	木	12						
7月4日	木	13						
7月11日	木	14						
7月18日	木	15						
8月22日	木	予備	主題別選択Ⅱ(予備日)	主題別人文社会科学セミナー (予備日)				
9月12日	木	1			主題別人文社会科学セミナー (後期:前半) Zoom			
9月19日	木	2						
9月26日	木	3						
10月3日	木		専門科目					
10月10日	木	4			主題別人文社会科学セミナー (後期:前半) Zoom			
10月17日	木	5						
10月24日	木	6						
10月31日	木	7						
11月7日	木				専門科目			
11月14日	木	8					主題別人文社会科学セミナー (後期:後半) Zoom	
11月21日	木	9						
11月28日	木	10						
12月5日	木	11						
12月12日	木	12						
12月19日	木	13						
1月9日	木	14						
1月16日	木	15						
1月23日	木	予備			主題別人文社会科学セミナー (医学科・歯学科3年生対象) 予備日			

# 教養教育

世界に通用する医療人になるためには、専門教育で獲得する知と技に加えて、様々な文化や多様な世界を理解できる教養と、他者を理解するための人間としての力が求められています。教養部では、そのためには、教養教育と、専門教育を学ぶための基礎教育を並行して行うことが必要だと考えています。

1年次には国府台キャンパスで、自然科学や人文社会科学の基本的な考え方を学ぶとともに基礎学力の充実を図りました。2年次と3年次には湯島キャンパスで、専門教育と密接にかかわる自然科学の分野を「生命科学基礎」として学びます。さらに、自然科学、人文社会科学、語学について複合的に学ぶことをとおして、自己問題提起・解決型の想像力を付けることを目的とした、「主題別選択Ⅰ・Ⅱ」と「主題別人文社会科学セミナー」の授業が行われます。

## 科目概要

### 1) 生命科学基礎 (生物学・化学)

1年次の学習だけでは不十分であった生物学、化学の内容を補うとともに、生命科学に関するトピックも取り上げ、医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学ぶことで、基礎学力のさらなる充実を図り、専門教育への円滑につないでいくことを目的としています。

### 2) 主題別選択Ⅰ・Ⅱ

「人間」という存在について、人間を生物的社会的存在たらしめている要素である「文化」「生命」「言語」「制度」「時間」という5つの視点の中から各自が1つの視点を選択し、その視点から「人間」を考えてみる授業です。3年次に行われる「主題別人文社会科学セミナー」へ向け、視野を広げ、基礎的な知識や考え方を身につけることを目的としています。

### 3) 主題別人文社会科学セミナー

各主題に別れて、担当者の指導のもと、自ら問題を設定し、調査・考察・討論を経て、一定の結論を導きます。自分が選択した主題の観点を中心に、「人間」という存在について、自分の考えを持つことが期待されています。

## 主題別教育(医学科・歯学科)について

### 【目的】

皆さんの多くは高校時代にコロナ禍を経験し、進路や将来を考える中で、「自分とは何か」という問いに向き合った方も少なくないのでしょうか。自分とはどのような人間なのか、何をしてどのように生きてきたのか、何が好きで何をしたいのか。また、どのような進路を選択し、今後どのように生きたいのか。さらに、このコロナ禍が私たちの生活を一変させたのは、家族に始まり学校に続く「集合体」、つまり「密」を形成して生活してきた人類の歩み自体を覆すものだったからでしょう。

しかし、人類の歩みは、この「人間とは何か」という疑問の連続であったのかもしれませんが。偉大な先人達は、「人間」の解明にあらゆる観点からいどみ、説明を試みてきました。それらは、「知」として蓄積され、私たちをさらなる思索へと導いてくれます。

東京医科歯科大学では、「主題別教育」という科目において、皆さんにこの「人間」という存在について、学び思考し、また自分の知見をまとめる授業をもうけています。人間を生物的また社会的存在たらしめている要素を、「文化」「生命」「言語」「制度」「時間」という5つの視点にし、そこから考えてみようという取り組みです。

1年次および2年次には、その準備として、視野を広げ、基礎的な知識や考え方を身につけます。ゴールは、3年次に行う「主題別人文社会科学セミナー」です。このセミナーでは、各主題に分かれて、担当者の指導のもと、自ら問題を設定し、調査・考察・討論を経て、一定の結論を導出します

セミナー修了時に、皆さん自身が、自分が選択した主題の観点を中心に、「人間」という存在について、自分なりの考えを持つことになることが目的です。もちろん、それは三年間もしくはこれまでの人生における段階的な「結論」であり、絶対ではないはずです。皆さんは今後の人生で学びを深め、また問題を与えられるたび、「人間とは何か」という疑問を持ち続けましょう。換言すれば、人間というものに向き合わざるを得ない職業に就かれる皆さんが、その問いを描かなくなった時、皆さんの歩みも学びも終わるのかもしれませんが。

その問いへの「結論」は段階や状況によって変わるでしょう。しかし、自らの疑問に向き合い、考え、調べ、学び、時に意見を交換し、結論を導くという「方法」をこの授業で身につけた人は、その各段階において、思索を深め、さらに「新たな問い」に向き合うことに楽しさや充実感を覚えるはずです。

この「喜び」は、将来、「人間」そのものを職業とする医学・歯学系の皆さんを支える、大きな力となるはずです。

## 【5つの主題】

文化と人間    生命と人間    言語と人間    制度と人間    時間と人間

各主題の目的は次の通りです。

文化と人間	文化とは、人間が創造し習得する精神的な価値の総体である。また、文化とは象徴的記号の体系である。そのような文化を理解することによって、人間の本質を捉えようとするのが目的である。
生命と人間	人間を含むあらゆる生物には生命が宿っている。医療はその生命と常に向き合わなければならない。その生命の多様な現象と、それに対する人間の様々な認識のありようを理解することが目的である。
言語と人間	人間と動物とを区別する最大の要素は言語の使用にある。人間は言語によって、自らの世界を構築してきた。その言語に関する様々な事象を理解することによって、人間の本質を捉えようとするのが目的である。
制度と人間	社会的生物である人間は、様々な制度に取り巻かれて生きている。その制度を相対的に理解することと、制度の構造を分析することによって、人間のありようを理解することが目的である。
時間と人間	人間は時間的存在であり、時間的拘束のもとに生きている。時間を相対的に理解し、その構造を明らかにすることによって、人間存在の本質を理解することが目的である。

上の5つの主題の中から、1つを選択します。各主題とも、定員は約30名です。

3年次の「主題別人文社会科学セミナー」は、この主題に分かれて開講されます。各セミナーは、1年次の人文社会科学科目の「主題に関連の深い科目」の担当者が担当する予定です（この1年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」については、次の【各学年の履修について】で説明します）。

どの主題に進むかを決定するのは、2年進級時です。1年生の2月に「希望調査」をし、希望を考慮しながら、各主題とも約30名になるように振り分けます。

1年生の間に、色々な科目を履修しながら、自分がどの主題を選択するかを考えておいて下さい。

## 【各学年の履修について】

### 1年生：基盤の形成

必修科目・必修選択科目・自由選択科目などで、さまざまな分野の科目が開講されています。それらに取り組むことにより、ある学問分野における基礎的な知識や、科学的な思考方法を身につけます。

同時に、人間に関する根源的な問いに対して、これまで人間自身がどのようにアプローチし、どのように理論化してきたのかということ学びます。そして、「問いの継続と発展」という学問のありようを理解します。

1年生は、3年生のセミナーに向けて基礎体力を養いながら、自分がどの主題に進むかを考える期間です。

特に、人文社会科学科目には、「主題に関連の深い科目」が設けられています（下表）。自分が進むかもしれないと思う主題については、その「主題に関連の深い科目」の中にある科目を、積極的に履修しておくことをお勧めします。

各主題に関連の深い科目は次の通りです。授業内容については、それぞれのシラバスを参照して下さい。

主題	関連の深い科目
文化と人間	文化人類学、歴史学、社会学
生命と人間	哲学、倫理学、宗教学
言語と人間	文学、哲学、文化人類学
時間と人間	歴史学、社会思想史、社会学
制度と人間	政治学、法学、社会科学特論

### 2・3年生前期：主題別選択科目—視点の拡充—

2・3年生では、前期の木曜日午前中に、「主題別選択科目」が開講されます。ただし、2年生（2022年度入学）はカリキュラム改編の影響でオンデマンド配信で受講することになります。

「主題別選択科目」とは、主題について考察できる、様々な学問分野にまたがった複合的な内容の選択科目です。各科目とも、50分間の授業が7回行われます。具体的には、各主題において、下表のような科目が開講される予定です。

2年前期と3年前期の前半8回、後半7回にそれぞれ1科目ずつ履修します。自分が選択した主題の「主題別選択科目」の中から2科目以上を履修することが望ましいです。

ただし、同一教員の科目を2回以上選択することはできません。前半8回と後半7回、合計2科目を履修して、1単位取得となります。

(例) 「言語と人間」を選択した学生

→ 3年前期の前半8回「生物間のコミュニケーション」履修

〃 後半7回「人体・医療の物理」履修

(この2科目で1単位取得)



主題	主題別選択科目（2024年度開講）	
	前期前半 8回（50分×8回）	前期後半 7回（50分×7回）
文化と人間	小説の言語と演劇の言語(木谷) 現代社会と時間（飯田） 外国につながる多様な人々と医療(伴野) 医療行動経済学における患者の意思決定（鶴田） 医歯系のための物理（檜枝） 物理数学演習（越野） 科学と疑似科学の境界（奈良） 食品の科学（澤野） 生命科学と社会（栗田）	視覚情報と言語(木谷) ドロモロジーと人間(飯田) 外国につながる多様な人々と教育（伴野） 医療行動経済学における医療者の意思決定（鶴田） タンパク質科学の光と影（奈良） 科学的な正しさとは何か（栗田）
生命と人間	医療の社会学（藤井） 外国につながる多様な人々と医療(伴野) 発がん確率過程（中林） 医歯系のための物理（檜枝） 物理数学演習（越野） 食品の科学（澤野） 生物の中の糖（勝又） 生物間のコミュニケーション（伊藤） 生命科学と社会（栗田） 生命科学と技術（仁科他）	数理で理解する発がん（中林） 人体・医療の物理（檜枝） タンパク質科学の光と影（奈良） 植物の科学（澤野） 宇宙生物学入門（本田） 環境への適応（伊藤） 科学的な正しさとは何か（栗田） 生命科学と医学（仁科他）
言語と人間	外国につながる多様な人々と医療(伴野) 生物間のコミュニケーション（伊藤）	民主主義を再考する（藤井） 外国につながる多様な人々と教育（伴野） 人体・医療の物理（檜枝） 微分方程式演習（越野）
制度と人間	現代社会と時間（飯田） 医療の社会学（藤井） 外国につながる多様な人々と医療(伴野) 医療行動経済学における患者の意思決定（鶴田） 科学と疑似科学の境界（奈良） 生命科学と社会（栗田）	ドロモロジーと人間(飯田) 民主主義を再考する（藤井） 外国につながる多様な人々と教育（伴野） 医療行動経済学における医療者の意思決定（鶴田） 人体・医療の物理（檜枝） 微分方程式演習（越野） 危険物の科学（勝又） 科学的な正しさとは何か（栗田）
時間と人間	医療の社会学（藤井） 発がん確率過程（中林） 医歯系のための物理（檜枝） 食品の科学（澤野）	民主主義を再考する（藤井） 数理で理解する発がん（中林） 微分方程式演習（越野） タンパク質科学の光と影（奈良） 植物の科学（澤野） 環境への適応（伊藤）

また、3年次に行われる主題別人文社会科学セミナーの担当者から、2年生の間に取り組むべき課題が提示される場合があります。2年生は、「主題別選択科目」を受講し、同時にその課題に取り組みながら、主題に関する視点の拡充をめざします。

### 3年生：主題別人文社会科学セミナー—思考の深化—

3年生では、主題ごとに、セミナーを受講します。

各主題の学生30人を、10人ずつのグループA・B・Cに分けます。セミナーは、このグループごとに、7回ずつ行われます。セミナーを担当する教員は、1年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」の教員が担当する予定です。

セミナーと並行して、「医療と法」および「医療と社会」という二つの講義科目が7回ずつ開講されます。グループごとに「セミナー」「医療と法」「医療と社会」を7回ずつ受講します。そして、学年の最後に開講される「総括セミナー」において、主題に関する自らの取り組みをレポートにまとめます。「総括セミナー」は、主題ごとに30人全員が参加し、討論を経てレポート執筆に取り組みます。

グループ (各10人)	前 期		後 期	
	前半7回	後半7回	前半7回	後半7回
グループA	セミナー	医療と社会	医療と法	総括セミナー (セミナー論文執筆)
グループB	医療と法	セミナー	医療と社会	
グループC	医療と社会	医療と法	セミナー	

1年生において基礎力を身に付け、自ら問いを見出す意識を養い、2年生「主題別選択科目」において視野を広げてきました。3年生「主題別人文社会科学セミナー」では、それらを前提にして、問題を設定し結論の導出を目指します。

問題は、自らの興味や関心にもとづいて、担当教員のアドバイスを受けながら、学生それぞれが設定します。その問題について、調査や考察を行い、またその結果を他の受講生と共有して、改善点を指摘しあいながら結論を導き出すのが「セミナー」です。そして、これらを集大成するのが、「総括セミナー（セミナー論文執筆）」です。

「総括セミナー（セミナー論文執筆）」がこの主題別教育のゴール地点となります。

「総括セミナー（セミナー論文執筆）」までの予定

4月4日（木）：各主題でオリエンテーション。

担当者より、セミナー計画・日程・セミナー論文の問題設定の仕方などについて説明。

4月4日（木）～10月31日（木）：セミナーと講義

11月14日（木）～2024年1月16日（木）：総括セミナー

1月30日（木）：提出締切（予定）

【今後の予定】

2年生 4月～7月 「主題別選択Ⅰ」受講 オンデマンド

3年生 4月～7月 「主題別選択Ⅱ」受講

4月～3月 「主題別人文社会科学セミナー」受講

【成績・評価について】

主題別選択Ⅰ・Ⅱ 前半と後半をあわせてそれぞれ1単位。

原則としてレポート(80点)、授業への参加度(20点)で評価。

(筆記試験で評価する場合に、その旨を周知する。)

ただし、レポートの代替として、授業の最終日に試験を実施することがある。

主題別人文社会科学セミナーと講義 あわせて2単位

原則として講義における試験と総括セミナーにおけるレポート(80点)、授業への参加度(20点)で評価。

## 主題別選択Ⅱ

時間割番号	000707																																																										
科目名	主題別選択Ⅱ(科学と疑似科学の境界)	科目ID	LA-310121-Z																																																								
担当教員	奈良 雅之[NARA MASAYUKI]																																																										
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																																								
実務経験のある教員による授業																																																											
<p>・曜日・時間: 木曜2限</p> <p>・対象学科: 医学科・歯学科</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-2)社会制度や仕組みについて基本を理解する</p> <p>1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>4-2) 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける</p>																																																											
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>巷には「マイナスイオン」、「パワーストーン」、「活性水素水」「ホメオパシー」など科学的な根拠がないもの、曖昧なもので溢れています。大学生の科学的な知識があれば、このようなニセ科学(疑似科学)に属するものには絶対だまされるはずはないと過信しがちですが、科学とニセ科学の間に明確な境界線があるわけではなく、白黒がはっきりつかないことがしばしばです。この授業では、社会問題としてインパクトの強かった疑似科学のトピックをいくつか選び、科学と疑似科学のグレーゾーンについて理解を深めます。受講者にはできるだけ授業に参加できるように、発言、発表する機会を設けたいと思います。</p>																																																											
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>授業の関係したテーマを見つけて、そのテーマの基づいて理解を深める。</p> <p>2000 字以上のレポートとしてまとめられることが、GPA における「B」に相当する。</p>																																																											
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> <th>到達目標・学習方法・その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>ガイダンスと身近な話題</td> <td>奈良 雅之</td> <td>この授業の概要について理解する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>疑似科学の分類について</td> <td>奈良 雅之</td> <td>疑似科学の基礎を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>典型的な疑似科学について(マイナスイオン)</td> <td>奈良 雅之</td> <td>疑似科学の基礎を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>典型的な疑似科学について(水からの伝言)</td> <td>奈良 雅之</td> <td>疑似科学の基礎を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>科学と疑似科学の違い(1)</td> <td>奈良 雅之</td> <td>科学と疑似科学の違いについて理解を深める。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>科学と疑似科学の違い(2)</td> <td>奈良 雅之</td> <td>科学と疑似科学の違いについて理解を深める。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>トピックス(1)</td> <td>奈良 雅之</td> <td>セミナー形式を取り入れます</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	ガイダンスと身近な話題	奈良 雅之	この授業の概要について理解する。	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	疑似科学の分類について	奈良 雅之	疑似科学の基礎を学ぶ。	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	典型的な疑似科学について(マイナスイオン)	奈良 雅之	疑似科学の基礎を学ぶ。	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	典型的な疑似科学について(水からの伝言)	奈良 雅之	疑似科学の基礎を学ぶ。	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	科学と疑似科学の違い(1)	奈良 雅之	科学と疑似科学の違いについて理解を深める。	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	科学と疑似科学の違い(2)	奈良 雅之	科学と疑似科学の違いについて理解を深める。	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	トピックス(1)	奈良 雅之	セミナー形式を取り入れます
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他																																																					
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	ガイダンスと身近な話題	奈良 雅之	この授業の概要について理解する。																																																					
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	疑似科学の分類について	奈良 雅之	疑似科学の基礎を学ぶ。																																																					
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	典型的な疑似科学について(マイナスイオン)	奈良 雅之	疑似科学の基礎を学ぶ。																																																					
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	典型的な疑似科学について(水からの伝言)	奈良 雅之	疑似科学の基礎を学ぶ。																																																					
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	科学と疑似科学の違い(1)	奈良 雅之	科学と疑似科学の違いについて理解を深める。																																																					
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	科学と疑似科学の違い(2)	奈良 雅之	科学と疑似科学の違いについて理解を深める。																																																					
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	トピックス(1)	奈良 雅之	セミナー形式を取り入れます																																																					

						(希望者に発表してもらいます。)
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	トピックス(2) 総括	奈良 雅之	セミナー形式を取り入れます (希望者に発表してもらいます。)
<b>授業方法</b>						
講義形式を予定していますが、履修人数が少ない場合は、希望に応じて、セミナー形式に変更することができます。履修人数が多い場合にも、文献や指定課題について事前に調べてディスカッションするなど、アクティブラーニングを取り入れます。						
<b>授業内容</b>						
社会問題としてインパクトの強かった疑似科学のトピックをいくつか選び、科学と疑似科学のグレーゾーンについて理解を深めます。科学的な側面から基礎事項を確認するとともに、文化、制度の面からも考えていきます。						
<b>成績評価の方法</b>						
評価: 試験0%・レポート80%						
その他20%(授業への参加度・授業中の回答状況)						
再評価: 有						
授業で習得したことをレポートにまとめることを重視します。						
<b>成績評価の基準</b>						
「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による						
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>						
予習: 配付資料、関連資料に目を通してください。						
復習: 興味のある項目について、文献を調べてください。						
<b>試験の受験資格</b>						
・定期試験・再試験の受験資格: 原則3分の2以上出席 (レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。)						
<b>参考書</b>						
嘘と絶望の生命科学／榎木英介 著.: 文藝春秋, 2014						
メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学／松永和紀 著.: 名古屋市鶴舞中央図書館点字文庫, 2010						
科学と人間の不協和音／池内了 [著].: 角川書店, 2012						
活性酸素／高柳 輝夫 編, 大坂 武男 編, 大坂 武男 [ほか] 共著, 日本化学会 監修.: 丸善						
博士漂流時代: 「余った博士」はどうなるか?／榎木英介 [著].: ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2010						
水素水とサビない身体／太田成男 著.: 小学館, 2013						
疑似科学入門／池内 了 著.: 岩波書店, 2008						
なぜ疑似科学が社会を動かすのか: ヒトはあやしげな理論に騙されたがる／石川幹人著, 石川, 幹人.: PHP 研究所, 2016						
<b>連絡先(メールアドレス)</b>						
nara.las@tmd.ac.jp						
<b>オフィスアワー</b>						
毎週水曜日 PM.0:00-PM.2:00(ただし、第 1 水曜日(教授会開催日)は PM.1:00 まで)、毎週木曜日 PM.0:20-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階						

時間割番号	000708																																										
科目名	主題別選択Ⅱ(環境への適応)	科目ID	LA-310130-Z																																								
担当教員	伊藤 正則[ITO MASANORI]																																										
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																								
実務経験のある 教員による授業																																											
<p>・曜日・時間: 木曜 2 限</p> <p>・対象学科: 医学科・歯学科</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p style="padding-left: 40px;">別表 1-8)自己の心と体を管理する能力を獲得する。</p> <p style="padding-left: 40px;">別表 2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける。</p>																																											
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>外部環境から刺激を受容したとき、同種の生物ではほぼ定型的な反応を示す。この授業では、刺激を受容してから反応が起こるまでの過程とその反応を制御するメカニズムを器官、組織、細胞、分子レベルで理解することを目的とする。また、基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明する技術を向上させることと、研究テーマと目的を設定し、目的を達成するための実験を立案する技術を習得することを目指す。主に、生物の環境適応を対象とする最近の研究論文を教材として用いる。</p>																																											
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>1)生体の基本構造を説明することができる。</p> <p>2)生体の構造と関連させて、基本的な機能を説明することができる。</p> <p>3)知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明することができる。</p> <p>4)研究テーマと目的を設定し、目的を達成するための実験を計画することができる。</p>																																											
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																							
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																							
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																							
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																							
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																							
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																							
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																							
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																							
<p><b>授業方法</b></p> <p>基本的には講義形式による。ただし、履修者の希望によってはセミナー形式等で行う。アクティブラーニングとして、必要であれば、その場で、インターネットにより情報検索を行う。疑問点を抽出する能力を向上させるために、毎回、コメントシートに疑問点などを記述し、提出する。</p>																																											



<p><b>授業内容</b></p> <p>生物が刺激を受容してから反応が起こるまでの過程とその反応を制御するメカニズムを器官、組織、細胞、分子レベルで説明する。主に、最近の研究論文(生物の環境適応に関する論文)を教材として用いて、発想から目的の設定、目的を達成するための実験計画の立案、結果を整理する方法及び考察での論理展開を重視して説明する。</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価:試験 0%・レポート 80%・授業への参加度 20%</p> <p>再評価:有</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表 2」による。</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>アクティブラーニングとして、予習では予め配布した参考資料(主に英語で書かれた論文)を読んでおくこと。授業内容について疑問点があれば、コメントシートに書く。次回の授業において疑問点について説明する。復習では授業内容を参考にして、研究テーマを設定し、研究目的を達成するための実験計画を立案したレポートを提出する</p>
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>2/3 以上出席したものにレポートを提出することができる資格を与える。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>その都度、論文を紹介する。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>Molecular biology of the cell／Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John Wilson, Tim Hunt,Johnson, Alexander D,Lewis, Julian, 1946-2014,Morgan, David Owen, 1958-,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-: Garland Science, Taylor and Francis Group, 2015</p> <p>脳とホルモンの行動学 : 行動神経内分泌学への招待／近藤保彦 [ほか] 編,近藤, 保彦,小川, 園子,菊水, 健史,山田,一夫,富原, 一哉,: 西村書店, 2010</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>伊藤 正則:itohmt.las@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>伊藤 正則:毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室</p>

時間割番号	000709																																															
科目名	主題別選択Ⅱ(物理数学演習)	科目ID	LA-310119-Z																																													
担当教員	越野 和樹[KOSHINO KAZUKI]																																															
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																													
実務経験のある教員による授業																																																
<p>・曜日・時間: 時間割を参照のこと</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)</p> <p>別表2-1)</p> <p>別表4-2)</p>																																																
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>私たちはみな、毎日の暮らしの中で物理法則に従って生きています。例えば、自動車の停止距離はスピードの2乗に比例しますが、このことは物理理論によって明快に説明することができます。物理法則は数学(特に微分方程式)を用いて記述されています。本講義では、微分方程式などの物理数学を演習形式で学習します。</p>																																																
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>問題演習をとおして、数理科学的能力を高めること。GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、演習問題が 7 割程度解けていることである。</p>																																																
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																												
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																												
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																												
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																												
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																												
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																												
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																												
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																												
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																												
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義およびアクティブラーニング(小テスト)</p>																																																
<p><b>授業内容</b></p> <p>授業スケジュール参照</p>																																																
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価: 試験(期末考査)0%・レポート0%・その他(各講義での小テスト)100%</p>																																																
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>																																																
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p>																																																

特別な準備は必要ないが、講義前半の基礎知識確認に集中すること。

**参考書**

「詳解物理応用数学演習」 後藤憲一ほか 共立出版

**履修上の注意事項**

数学・物理学の双方に十分な予備知識を有することが望ましい。

**連絡先(メールアドレス)**

越野 和樹:ikuzak.las@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

越野 和樹:毎週火曜日 12:30--13:00 ヒポクラテス 4 階

時間割番号	000711					
科目名	主題別選択Ⅱ(食品の科学)	科目ID	LA-310123-Z			
担当教員	澤野 頼子[SAWANO YORIKO]					
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3			
実務経験のある 教員による授業						
<p>曜日・時間:木曜日・2 時限</p> <p>対象学科:医学科・歯学科</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>別表1-3)人間の歴史的営みを理解する</p> <p>別表2-1)自然現象を科学的に探究するための方法論を知る。</p>						
<b>主な講義場所</b>						
Zoom による遠隔授業(同期型)						
<b>授業の目的、概要等</b>						
<p>食品は私たちの健康や生命を維持するために欠かすことのできない大切なものである。人間にとって食品とは、身体の形成やエネルギー供給源として働く「栄養素」を与えるだけのものではない。「おいしさ」や「安全性」を兼ね備え、健康の維持や疾病の予防に有効な「機能性(生体調節機能)」をもたらすものでもある。そして、「食生活」、「食文化」という言葉が表すように、食は人類の進化の歴史の中で、生活環境や文化と密接に関連し、変遷を遂げてきた。本授業では、食の歴史的背景、食品成分の化学的性質を学び、食品の様々な側面についての理解を深めることを目的とする。</p>						
<b>授業の到達目標</b>						
<p>1)講義、PBL・課題発表により食品を文化的、歴史的、および科学的側面からとらえ、PBL や課題発表を行い、自分の考えをレポートにまとめる。</p> <p>GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。</p>						
<b>授業計画</b>						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	イントロダクション、食の歴史(1)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	食の歴史(2)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	食の歴史(3)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	食品成分の化学的性質(1)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	食品成分の化学的性質(2)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	食品成分の化学的性質	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠

				(3)		隔講義(同期型)、リアクション ペーパー提出
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	PBL	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】 PBL
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	発表会	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】課 題発表、リアクションペーパー 提出
<b>授業方法</b>						
講義形式およびアクティブラーニング形式(PBL、課題発表など)で行う。						
<b>授業内容</b>						
食の歴史的背景および食品成分の化学的性質について学ぶ。						
<b>成績評価の方法</b>						
評価 : 試験 0% ・ レポート 75% ・ 授業への参加度および PBL・課題発表 25%						
再評価: 有						
<b>成績評価の基準</b>						
「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による						
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>						
講義資料(WebClass に掲載)に目を通しておく。						
授業で扱った事項について、参考書やインターネット等により知識の拡充・整理を行い、自分なりの考えをまとめる。						
<b>試験の受験資格</b>						
定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上出席(各回の Zoom 授業への参加および WebClass への課題(リアクションペーパー)提出の双方により出席確認を行う)						
(レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。)						
<b>参考書</b>						
食品の科学/上野川修一, 田之倉優 編.: 東京化学同人, 2005						
食品学 : 食品成分と機能性 第2版/久保田紀久枝, 森光康次郎編,久保田, 紀久枝,森光, 康次郎.: 東京化学同人, 2021						
ニューフードサイエンス/鮫島邦彦, 高橋史生 編著,鮫島, 邦彦, 1938-,高橋, 史生.: 三共出版, 2005						
健康と食生活/吉田勉 編著,吉田, 勉, 1927-.: 学文社, 2016						
パソコンで学ぶ食品化学 : 目で見える食品成分とその変化/高野克己, 渡部俊弘編著,高野, 克己,渡部, 俊弘.: 三共出版, 2005						
健康と調理のサイエンス : 調理科学と健康の接点/大越ひろ, 品川弘子 編著,渡辺敦子, 大須賀彰子, 藤井恵子, 高橋智子, 飯田文子 著.: 学文社, 2017						
<b>連絡先(メールアドレス)</b>						
澤野 頼子:sawano.las@tmd.ac.jp						
<b>オフィスアワー</b>						
澤野 頼子:毎週金曜日 PM.0:30-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階						

時間割番号	000712																																																		
科目名	主題別選択Ⅱ(生物の中の糖)	科目ID	LA-310125-Z																																																
担当教員	勝又 敏行[KATSUMATA TOSHIYUKI]																																																		
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																																
実務経験のある教員による授業																																																			
<p>曜日・時間:木曜日 2限</p> <p>対象学科:医学科、歯学科</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>別表2-1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る</p> <p>別表2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける</p>																																																			
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>糖は生物の中で構造体、エネルギー源をはじめとして、タンパク質、核酸、脂質などと結合して重要な機能を担っている物質である。糖の化学的性質および生体内での機能を、疾病との関連等最新の知見を交えながら講義形式で紹介していく。最後に自分の興味を持った事柄について調べ、プレゼンテーションを行ってもらう(アクティブラーニング)。</p>																																																			
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>糖の性質と機能について基礎的な知識を身につけ、レポート、プレゼンテーションにまとめられる。</p> <p>GPA における「B」の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。</p>																																																			
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>授業内容</th> <th>担当教員</th> <th>到達目標・学習方法・その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>糖とは何か</td> <td>糖とは何かについて</td> <td>勝又 敏行</td> <td>糖とは何かについて理解する。講義による、出席 2/3 以上</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>糖の構造</td> <td>糖の構造について</td> <td>勝又 敏行</td> <td>糖の構造について理解する。講義による、出席 2/3 以上</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>糖の合成</td> <td>糖の合成について</td> <td>勝又 敏行</td> <td>糖の合成について理解する。講義による、出席 2/3 以上</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>レクチンについて</td> <td>レクチンについて</td> <td>勝又 敏行</td> <td>レクチンについて理解する。講義による、出席 2/3 以上</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>糖のかかわる現象</td> <td>現象 糖のかかわる現象の紹介</td> <td>勝又 敏行</td> <td>糖のかかわる現象について理解する。講義による、出席 2/3 以上</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	糖とは何か	糖とは何かについて	勝又 敏行	糖とは何かについて理解する。講義による、出席 2/3 以上	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	糖の構造	糖の構造について	勝又 敏行	糖の構造について理解する。講義による、出席 2/3 以上	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	糖の合成	糖の合成について	勝又 敏行	糖の合成について理解する。講義による、出席 2/3 以上	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	レクチンについて	レクチンについて	勝又 敏行	レクチンについて理解する。講義による、出席 2/3 以上	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	糖のかかわる現象	現象 糖のかかわる現象の紹介	勝又 敏行	糖のかかわる現象について理解する。講義による、出席 2/3 以上
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他																																												
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	糖とは何か	糖とは何かについて	勝又 敏行	糖とは何かについて理解する。講義による、出席 2/3 以上																																												
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	糖の構造	糖の構造について	勝又 敏行	糖の構造について理解する。講義による、出席 2/3 以上																																												
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	糖の合成	糖の合成について	勝又 敏行	糖の合成について理解する。講義による、出席 2/3 以上																																												
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	レクチンについて	レクチンについて	勝又 敏行	レクチンについて理解する。講義による、出席 2/3 以上																																												
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	糖のかかわる現象	現象 糖のかかわる現象の紹介	勝又 敏行	糖のかかわる現象について理解する。講義による、出席 2/3 以上																																												

6	5/9	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	糖のかかわる現象	現象 糖のかかわる現象の紹介	勝又 敏行	糖のかかわる現象について理解する。講義による、出席 2/3 以上
7	5/16	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	プレゼンテーション1	プレゼンテーションを行う。	勝又 敏行	自らテーマを設定してプレゼンテーションできる。アクティブラーニング、出席 2/3 以上
8	5/23	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	プレゼンテーション2	プレゼンテーションを行う。	勝又 敏行	自らテーマを設定してプレゼンテーションできる。アクティブラーニング、出席 2/3 以上

#### 授業方法

講義形式および一部アクティブラーニングを取り入れる。

#### 授業内容

1. 糖とは何か
2. 糖の種類、および構造、性質
3. 糖の分析法
4. 植物における糖
5. 人の中の糖1
6. 人の中の糖2
7. 糖と疾病

#### 成績評価の方法

評価: 試験 0%、レポート 50%、出席、授業への参加度(発表を含む)等 50%  
アクティブラーニングを取り入れ以上の通りとする。

#### 成績評価の基準

「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による

#### 準備学習等についての具体的な指示

講義に興味を持った項目について調べ、次の授業に臨んでください。

#### 参考書

コールドスプリングハーバー糖鎖生物学/Ajit Varki [ほか編], 鈴木康夫, 木全弘治 監訳, :丸善, 2010

#### 連絡先(メールアドレス)

勝又 敏行:katsumata.las@tmd.ac.jp

#### オフィスアワー

勝又 敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

時間割番号	000714																																															
科目名	主題別選択Ⅱ(生物間のコミュニケーション)	科目ID	LA-310129-Z																																													
担当教員	伊藤 正則[ITO MASANORI]																																															
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																													
実務経験のある教員による授業																																																
<p>・曜日・時間: 木曜 2 限</p> <p>・対象学科: 医学科・歯学科</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)</p> <p>別表 1-1)言語を通じた人間の創造的営みを理解する。</p> <p>別表 2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける。</p>																																																
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>この授業の目的は次の1)～4)である。</p> <p>1)生物間におけるコミュニケーションの方法(ヒトによる言語を含む)とその制御メカニズムを理解する。</p> <p>2)この分野における研究の現状を理解する。</p> <p>3)基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明する技術を向上させる。</p> <p>4)研究テーマと目的を設定し、目的を達成するための実験を立案する技術を習得する。</p>																																																
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>1)生物間におけるコミュニケーションの方法、その制御メカニズム、この分野における研究の現状を説明することができる。</p> <p>2)基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明することができる。</p> <p>3)研究テーマと目的を設定し、目的を達成するための実験を立案することができる。</p>																																																
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伊藤 正則</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則	8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																												
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																												
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																												
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																												
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																												
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																												
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																												
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																												
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伊藤 正則																																												
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義形式で行う。ただし、履修者の希望によってはセミナー形式等で行う。アクティブラーニングとして、毎回、コメントシート</p>																																																



<p>に疑問点などを書き、提出する。自身でテーマを見つけ、レポートを作成する。</p>
<p><b>授業内容</b></p> <p>ヒトによる言語等の生物間におけるコミュニケーションの方法とその制御メカニズムを説明する。主に、最近の研究論文を教材として用いて、発想から目的の設定、目的を達成するための実験計画の立案、結果を整理する方法及び考察での論理展開を重視して説明する。</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価:試験 0%・レポート 80%・授業への参加度 20%</p> <p>再評価:有</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表 2」による。</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>予習では予め配布した参考資料を読んでおくこと。復習では授業内容を参考にして、研究テーマを設定し、研究目的を達成するための実験計画を立案したレポートを提出する。</p>
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>2/3 以上出席したものにレポートを提出することができる資格を与える。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>必要に応じて参考資料を配布する。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>脳とホルモンの行動学：行動神経内分泌学への招待／近藤保彦 [ほか] 編,近藤, 保彦,小川, 園子,菊水, 健史,山田,一夫,富原, 一哉.:西村書店, 2010</p> <p>化学受容の科学：匂い・味・フェロモン分子から行動まで／東原和成 編,東原, 和成, 1966-.:化学同人, 2012</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>伊藤 正則:itohmt.las@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>伊藤 正則:毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室</p>

時間割番号	000715																																															
科目名	主題別選択Ⅱ(医療の社会学)	科目ID	LA-310131-Z																																													
担当教員	藤井 達夫[FUJII Tatsuo]																																															
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																													
実務経験のある教員による授業																																																
曜日・時間: 木曜 2 限 対象学科: 医・歯学科 募集人数: 25 人 科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 1-2)、1-3)、1-4)、1-5)、1-9)、1-10)、2-4)																																																
<b>主な講義場所</b> Zoom でのオンライン授業																																																
<b>授業の目的、概要等</b> この授業では、テクノロジーの発展の中で医療が理想とした社会像や、医療が実際に可能にした社会の仕組みを批判的に検討します。その上で、医療との関係において、現在の社会がどこに向かおうとしているのかを考えます。具体的には、18世紀から 20 世紀にかけての近代社会の形成と医療の発展との間の根深く暗い関係を優生思想の観点から議論します。さらに、20 世紀後半に登場する新しい優生思想の影響下で現代の医療が目指す社会像を検討します。今年度は、「優生手術」を手掛かりに、優生思想と障害者問題にも焦点を当てる予定です。																																																
<b>授業の到達目標</b> (1)人文学・社会科学的な知見に基づいて医療を理解することができる。 (2)社会のあり方やその仕組みに位置付けて医療の抱える問題を発見し、解決を模索するための視座を得ることができる。																																																
<b>授業計画</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																												
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																												
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																												
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																												
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																												
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																												
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																												
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																												
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																												
<b>授業方法</b> 講義形式と授業内での質疑応答。ただし、履修者の人数によっては、セミナー形式をとる場合もあります。																																																
<b>授業内容</b> 第 1 回 医療が描く理想社会——民族衛生から SDH、そして COVID-19 へ 第 2 回 医療と優生思想 第 3 回 健康優良者からなる社会——ナチス・ドイツの例 第 4 回 健康優良者からなる社会——日本の例																																																

<p>第 5 回 リベラルな優生思想？——感受性とエンハンスメントの医療</p> <p>第 6 回 生命が廃棄される社会における障害者——戦後の障害者政策と障害者運動</p> <p>第 7 回 「青い芝の会」と障害者の自己決定権</p> <p>第 8 回 現代の優生思想とそのユートピア</p> <p>※以上の授業計画には、変更の可能性があります。</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価: レポート 80%・その他(授業での取り組み)20%</p> <p>再評価: 有(再評価方法)レポート</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の内容を理解し、リアクションペーパーおよびレポートにその理解を再現できる</li> <li>・講義の内容を参照しつつ、リアクションペーパーおよびレポートにおいて現代の医療が抱える問題点を社会学的視座から指摘し検討できる。</li> </ul>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>授業内で指示された課題への取り組み。</p> <p>スライドによる授業内容の予習。</p>
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>全授業回数数の 2/3 以上の出席を単位認定の条件とします。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>教科書は使用しません。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>ハクスレー『素晴らしい新世界』(講談社文庫、1974 年)</p> <p>カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』(ハヤカワ epi 文庫、2008 年)</p> <p>ジグムント・バウマン『近代とホロコースト』(大月書店、2006 年)</p> <p>横塚晃一『母よ！殺すな』(生活書院、2007 年)</p> <p>横田弘『障害者殺しの思想』(現代書館、2015 年)</p> <p>優生手術に対する謝罪を求める会編『優生保護法が犯した罪』(現代書館、2018 年)</p> <p>マイケル・マーモット『健康格差』(日本評論社、2017 年)</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>出欠・遅刻の扱いについては、該当する規則に従います。ただし、教員自身が出欠を取る場合もあります。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>藤井 達夫:fujii.las@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>藤井 達夫:毎週月曜日 12:00—13:00(管理棟 2 階)</p>

時間割番号	000719																																																			
科目名	主題別選択Ⅱ(植物の科学)	科目ID	LA-310124-Z																																																	
担当教員	澤野 頼子[SAWANO YORIKO]																																																			
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																																	
実務経験のある教員による授業																																																				
<p>曜日・時間:木曜日・2 時限</p> <p>対象学科:医学科・歯学科</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>別表1-3)人間の歴史的営みを理解する</p> <p>別表1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p>																																																				
<p><b>主な講義場所</b></p> <p>Zoom による遠隔授業(同期型)</p>																																																				
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>植物は地球上のあらゆる生物の生存を支えている。動物の食物として役立つだけでなく、光合成によって大気圏の二酸化炭素を吸収して酸素を供給し、大気環境を保持する役割をもつ。また、人間は、太古に繁殖していた植物の遺体を化石燃料として、医療現場では植物中の有効成分から誘導された医薬品を利用している。本授業では、植物の構造・成長・代謝などに関する基礎的な知識を講義を通して学び、植物と人類や環境との関わりについて考える。</p>																																																				
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>1)講義、PBL・課題発表により植物を歴史のおよび科学的側面からとらえ、自分の考えをレポートにまとめる。</p> <p>GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。</p>																																																				
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> <th>到達目標・学習方法・その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>イントロダクション、植物の歴史と人類との関わり</td> <td>澤野 頼子</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>植物の構造</td> <td>澤野 頼子</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>植物の成長</td> <td>澤野 頼子</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>植物の機能(1)</td> <td>澤野 頼子</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>植物の機能(2)</td> <td>澤野 頼子</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>PBL</td> <td>澤野 頼子</td> <td>【到達目標】1)【学習方法】PBL</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	イントロダクション、植物の歴史と人類との関わり	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	植物の構造	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	植物の成長	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	植物の機能(1)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	植物の機能(2)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	PBL	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他																																														
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	イントロダクション、植物の歴史と人類との関わり	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出																																														
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	植物の構造	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出																																														
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	植物の成長	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出																																														
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	植物の機能(1)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出																																														
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	植物の機能(2)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】遠隔講義(同期型)、リアクションペーパー提出																																														
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	PBL	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL																																														

7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	発表会	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】 課題発表、リアクションペーパー提出
<b>授業方法</b>						
講義形式およびアクティブラーニング形式(PBL、課題発表など)で行う。						
<b>授業内容</b>						
植物の構造・成長・代謝や人類や環境との関わりについて学ぶ。						
<b>成績評価の方法</b>						
評価 : 試験 0% ・ レポート 75% ・ 授業への参加度および PBL・課題発表 25%						
再評価: 有						
<b>成績評価の基準</b>						
「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による						
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>						
講義資料(WebClass に掲載)に目を通しておく。						
授業で扱った事項について、参考書やインターネット等で知識を整理し、自分なりの考えをまとめる。						
<b>試験の受験資格</b>						
定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上出席(各回の Zoom 授業への参加および WebClass への課題(リアクションペーパー)提出の双方により出席確認を行う)						
(レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。)						
<b>参考書</b>						
植物生理学 第2版/三村徹郎, 深城英弘, 鶴見誠二編著,三村, 徹郎,深城, 英弘,鶴見, 誠二,:化学同人, 2019						
ベーシックマスター 植物生理学/塩井祐三, 井上弘, 近藤矩朗 共編,:オーム社, 2009						
植物生理学概論/桜井英博 [ほか] 共著,桜井, 英博,柴岡, 弘郎(1934-),高橋, 陽介,小関, 良宏,藤田, 知道(1964-),:培風館, 2017						
新しい植物科学:環境と食と農業の基礎/神阪盛一郎, 谷本英一 共編,神阪, 盛一郎, 1940-,谷本, 英一,:培風館, 2010						
<b>連絡先(メールアドレス)</b>						
澤野 頼子:sawano.las@tmd.ac.jp						
<b>オフィスアワー</b>						
澤野 頼子:毎週金曜日 PM.0:30-PM.1:20 ヒポクラテス 4 階						

時間割番号	000721																																															
科目名	主題別選択Ⅱ(現代社会と時間)	科目ID	LA-310540-Z																																													
担当教員	飯田 卓[IIDA SUGURU]																																															
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																													
実務経験のある教員による授業																																																
<p>曜日・時間:木曜2限</p> <p>対象学科:医学科・歯学科</p> <p>募集人数:10名以内</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-3)人間の歴史的営みを理解する</p> <p>1-4)異なる空間の文化を理解する</p> <p>1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p>																																																
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>ドイツの児童文学作家ミヒャエル・エンデの『モモ』に登場する「灰色の男たち」(時間泥棒)は、次のように語っている。「人間の時間を手中に収めれば、無限の権力を握ることができる」と。だが、時間はどのような意味で権力と言えるのだろうか。また、私たちは毎日のように時間に追われる生活を送っているが、たとえば時間を節約するとはどういうことだろうか。そもそも節約などできるのだろうか。同じ1時間を長く感じたり短く感じたりするのはなぜだろうか。さらに、現代社会において自明なものとして表象される直線的な時間は、時間というものを適切に捉えているのだろうか。時間を直線として、すなわち様々な時点が並列した秩序として捉えることは、時間ではなく空間的なものを想定しているのではないだろうか。時点とは本来、そのつど生成しては消滅してゆく今(現在)を意味するはずであり、そうした意味での今は、点として他の点と並んで残り続けるようなものとは対極をなすものではないだろうか。この授業では、私たちが自明視している時間概念に疑いの眼差しを向けることを通じて時間の本性に迫るとともに、とくに時間と社会との密接なつながりについて考察したい。</p>																																																
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>(1)時間に関する基礎概念を身につける。</p> <p>(2)「主観的時間」と「客観的時間」との関係を理解する。</p> <p>(3)部分と全体とを関連づけて思考する技法を身につける。</p>																																																
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																												
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																												
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																												
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																												
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																												
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																												
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																												
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																												
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																												
<p><b>授業方法</b></p>																																																

<p>アクティブラーニング形式(プレゼンテーション、ディスカッション中心)</p>
<p><b>授業内容</b></p> <p>主として、文献講読と受講者によるプレゼンテーションを予定している。現代社会と時間に関する文献を用いて、以下の内容を中心に考察する予定である。</p> <p>(1) 暦と時計時間  (2) 権力としての時間  (3) 量的時間・質的時間  (4) 線形時間  (5) 社会と時間</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価： 試験 0% ・ レポート 0% ・ その他(授業への参加度——発表、質疑応答、毎回の課題による) 100%</p> <p>再評価： 有(レポートの予定)</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>配布された文献は、次回までに精読しておいてください。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>とくに必要ありません。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>M.エンデ『モモ』岩波少年文庫(2005年)、伊藤美登里『現代人と時間——もうみんないっしょではいられない』学文社(2008年)、西本郁子『時間意識の近代——「時は金なり」の社会史』法政大学出版局(2006年)、橋本毅彦・栗山茂彦編著『遅刻の誕生——近代における時間意識の形成』三元社(2001年)、内山節『時間についての二章——哲学における時間の問題』岩波書店(2011年)、B.アダム『時間と社会理論』法政大学出版局(1997年)、J.リフキン『タイムウォーズ』等</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>コメントシートを配布し、出欠をとります。</p>

時間割番号	000722																																										
科目名	主題別選択Ⅱ(ドロマロジーと人間)	科目ID	LA-310541-Z																																								
担当教員	飯田 卓[IIDA SUGURU]																																										
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																								
実務経験のある教員による授業																																											
<p>曜日・時間:木曜2限</p> <p>対象学科:医学科・歯学科</p> <p>募集人数:10名以内</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-3)人間の歴史的営みを理解する</p> <p>1-4)異なる空間の文化を理解する</p> <p>1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p>																																											
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>情報革命は時間と空間を極度に圧縮することによって、それ以前の革命とはまったく異なる質的变化を個人と社会に引き起こした。P・ヴィリリオはこのような変化を「速度」という観点から考察し、「今・ここ」ではない「いつか・どこか」の前方へと追い立てる強制力を「ドロマロジー」と呼んでいる。これは、「今・ここ」という現在を「いつか・どこか」という未来へと総動員することによって、「今・ここ」という現在を収奪することを意味している(「今・ここ」ではない「いつか・どこか」の為に生きること)。この授業では、国家や政治や社会の体制を、それゆえ社会的存在たる人間の生き方をその内部から規定し突き動かす「ドロマロジー」の原理とその派生的問題について、主として時間の観点から考察し、現代社会における人間の生の意味を問うてみたい。</p>																																											
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>(1)ドロマロジーの基本構造について、社会制度(や制度が生み出す問題)と関わらせて理解する。</p> <p>(2)「今・ここ」(現在)の意味を問い直すことができる。</p> <p>(3)部分と全体とを関連づけて思考する技法を身につける。</p>																																											
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																							
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																							
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																							
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																							
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																							
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																							
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																							
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	飯田 卓																																							
<p><b>授業方法</b></p> <p>アクティブラーニング形式(プレゼンテーション、ディスカッション中心)</p>																																											
<p><b>授業内容</b></p>																																											



主として、文献講読と受講者によるプレゼンテーションを予定している。参考書の欄に挙げたような文献を用いて、以下の内容を中心に考察する予定である。

- (1)線形時間
- (2)ドロモロジー
- (3)前望構造と進歩史観
- (4)生のユーティリティ化
- (5)生きられる現在

#### 成績評価の方法

評価：試験 0% ・ レポート 0% ・ その他(授業への参加度——発表、質疑応答、毎回の課題による) 100%  
再評価： 有(レポートの予定)

#### 成績評価の基準

「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による

#### 準備学習等についての具体的な指示

配布された文献は、次回までに精読しておいてください。

#### 教科書

とくに必要ありません。

#### 参考書

P.ヴェリリオ『瞬間の君臨——リアルタイム世界の構造と人間社会の行方』新評論(2003年)、P.ヴェリリオ『速度と政治——地政学から時政学へ』平凡社(2001年)、古東哲明『瞬間を生きる哲学——〈今ここ〉に佇む技法』筑摩書房(2011年)、古東哲明『ハイデガー＝存在神秘の哲学』講談社現代新書(2002年)、佐藤透『人生の意味の哲学——時と意味の探求』春秋社(2012年)、J・レフキン『タイムウォーズ』早川書房(1989)、鷺田清一『だれのための仕事』講談社学術文庫(2011年)、鷺田清一『「待つ」ということ』角川選書(2006年)等

#### 履修上の注意事項

コメントシートを配布し、出欠をとります。

時間割番号	000725																																										
科目名	主題別選択Ⅱ(微分方程式演習)	科目ID	LA-310120-Z																																								
担当教員	越野 和樹[KOSHINO KAZUKI]																																										
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																								
実務経験のある教員による授業																																											
<p>・曜日・時間: 時間割を参照のこと</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)</p> <p>別表2-1)</p> <p>別表4-2)</p>																																											
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>私たちはみな、毎日の暮らしの中で物理法則に従って生きています。例えば、自動車の停止距離はスピードの2乗に比例しますが、このことは物理理論によって明快に説明することができます。物理法則は数学(特に微分方程式)を用いて記述されています。本講義では、微分方程式などの物理数学を演習形式で学習します。</p>																																											
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>問題演習をとおして、数理科学的能力を高めること。GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、演習問題が7割程度解けていることである。</p>																																											
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>越野 和樹</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																							
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																							
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																							
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																							
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																							
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																							
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																							
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	越野 和樹																																							
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義およびアクティブラーニング(小テスト)</p>																																											
<p><b>授業内容</b></p> <p>授業スケジュール参照</p>																																											
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価: 試験(期末考査)0%・レポート0%・その他(各講義での小テスト)100%</p>																																											
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>																																											
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p>																																											

特別な準備は必要ないが、講義前半の基礎知識確認に集中すること。

**参考書**

「詳解物理応用数学演習」 後藤憲一ほか 共立出版

**履修上の注意事項**

数学・物理学の双方に十分な予備知識を有することが望ましい。

**連絡先(メールアドレス)**

越野 和樹:ikuzak.las@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

越野 和樹:毎週火曜日 12:30--13:00 ヒポクラテス 4 階

時間割番号	000726																																																			
科目名	主題別選択Ⅱ(タンパク質科学の光と影)	科目ID	LA-310122-Z																																																	
担当教員	奈良 雅之[NARA MASAYUKI]																																																			
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																																	
実務経験のある教員による授業																																																				
<p>・曜日・時間: 木曜2限</p> <p>・対象学科: 医学科・歯学科</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-3)人間の歴史的営みを理解する。</p> <p>1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>2-1)自然現象を科学的に理解するための方法論を知る</p> <p>4-2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける</p>																																																				
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>我々の生存を支えている生命現象はきわめて複雑で、それにはタンパク質、糖質、脂質、核酸などの多種類の物質が関わっています。それらの物質の中で生命現象の直接的な担い手であるタンパク質に注目が集まっています。21世紀はタンパク質の時代ともはやされて、この10年間で大型のプロジェクトが活発に推進されました。この授業ではタンパク質研究におけるX線、核磁気共鳴(NMR)、赤外線という電磁波の活用に焦点を当てます。これらの光を活用するために、フーリエ変換という数学的な手法について知り、タンパク質科学の「光と影」について理解を深めます。</p>																																																				
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>授業に関するテーマを見つけて、そのテーマについて理解を深める。</p> <p>授業にすべて出席して、授業内容をおおむね理解したうえで、</p> <p>2000字以上のレポートとしてまとめられることが、GPAにおける「B」に相当する。</p>																																																				
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> <th>到達目標・学習方法・その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>ガイダンス</td> <td>奈良 雅之</td> <td>この授業の概要と評価法について理解する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>構造生物学の歴史 その1</td> <td>奈良 雅之</td> <td>タンパク質科学の背景を理解する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>構造生物学の歴史 その2</td> <td>奈良 雅之</td> <td>タンパク質科学の背景を理解する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>タンパク質の立体構造解析(1)</td> <td>奈良 雅之</td> <td>タンパク質の立体構造解析法を理解する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>タンパク質の立体構造解析(2)</td> <td>奈良 雅之</td> <td>タンパク質の立体構造解析法を理解する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>タンパク質の立体構造解析(3)</td> <td>奈良 雅之</td> <td>タンパク質の構造機能相関について理解を深める。</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	ガイダンス	奈良 雅之	この授業の概要と評価法について理解する。	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	構造生物学の歴史 その1	奈良 雅之	タンパク質科学の背景を理解する。	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	構造生物学の歴史 その2	奈良 雅之	タンパク質科学の背景を理解する。	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	タンパク質の立体構造解析(1)	奈良 雅之	タンパク質の立体構造解析法を理解する。	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	タンパク質の立体構造解析(2)	奈良 雅之	タンパク質の立体構造解析法を理解する。	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	タンパク質の立体構造解析(3)	奈良 雅之	タンパク質の構造機能相関について理解を深める。
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他																																														
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	ガイダンス	奈良 雅之	この授業の概要と評価法について理解する。																																														
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	構造生物学の歴史 その1	奈良 雅之	タンパク質科学の背景を理解する。																																														
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	構造生物学の歴史 その2	奈良 雅之	タンパク質科学の背景を理解する。																																														
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	タンパク質の立体構造解析(1)	奈良 雅之	タンパク質の立体構造解析法を理解する。																																														
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	タンパク質の立体構造解析(2)	奈良 雅之	タンパク質の立体構造解析法を理解する。																																														
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	タンパク質の立体構造解析(3)	奈良 雅之	タンパク質の構造機能相関について理解を深める。																																														

7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	トピックス/総括	奈良 雅之	セミナー形式(希望者に発表してもらいます)
<b>授業方法</b>						
<p>講義形式を予定していますが、履修人数が少ない場合は、希望に応じて、セミナー形式に変更することができます。履修人数が多い場合にも、文献や指定課題について事前に調べてディスカッションするなど、アクティブラーニングを取り入れます。</p>						
<b>授業内容</b>						
<p>21世紀はタンパク質の時代ともはやされて、この18年間で大型のプロジェクトが活発に推進されましたが、その光と影に迫ってみたいと考えます。科学的な知識として、タンパク質構造解析の概略を勉強しますが、実際にこの研究に携わったポスドクの問題など、社会的な視点からも理解を深めます。</p>						
<b>成績評価の方法</b>						
<p>評価:試験0%・レポート80%</p> <p>その他(授業への参加度20%)</p> <p>再評価:有</p> <p>授業で習得したことをレポートにまとめることを重視します。</p>						
<b>成績評価の基準</b>						
<p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>						
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>						
<p>予習:配付資料に目を通してください。</p> <p>復習:興味のあるテーマを見つけたら、それに関する文献や本を調べてください。</p>						
<b>試験の受験資格</b>						
<p>・定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上出席 (レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。)</p>						
<b>参考書</b>						
<p>タンパク質の生命科学:ポスト・ゲノム時代の主役/池内俊彦 著,中央公論新社,2001</p> <p>ポストゲノム時代のタンパク質科学:構造・機能・ゲノミクス/Arthur M.Lesk 著,高木淳一 訳,化学同人,2007</p> <p>入門構造生物学:放射光 X 線と中性子で最新の生命現象を読み解く/高エネルギー加速器研究機構構造生物学研究センター,加藤龍一 編,共立出版,2010</p> <p>タンパク質の構造と機能:カラー図説/グレゴリー A. ベツコ/著,ダグマール リンゲ/著,横山 茂之/監訳,宮島 郁子/訳,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2005</p>						
<b>連絡先(メールアドレス)</b>						
<p>nara.las@tmd.ac.jp</p>						
<b>オフィスアワー</b>						
<p>毎週水曜日 PM.0:00-PM.2:00(ただし、第1水曜日(教授会開催日)は PM.1:00 まで), 毎週木曜日 PM.0:20-PM.1:20 ヒポクラテス4階</p>						

時間割番号	000728		
科目名	主題別選択Ⅱ(生命科学と医学)	科目ID	LA-310138-Z
担当教員	高地 雄太, 内田 智士, 二階堂 愛, 七田 崇, 島村 徹平, 伊藤 暢聡[KOUCHI Yuuta, UCHIDA SATOSHI, NIKAIDO Itoshi, SHICHITA Takashi, SHIMAMURA TEPPEI, ITO NOBUTOSHI]		
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3
実務経験のある 教員による授業			
<p>・曜日・時間: 木曜2限</p> <p>・対象学科: 医学科・歯学科</p> <p>・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)</p> <p>1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>2-1) 自然現象を科学的に探求するための方法論を知る</p> <p>2-2) 自然現象を探求するための手法を知る</p>			
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>難治疾患研究所は、難治疾患をその学理と応用の研究により克服し、人々の健康と社会の福祉に貢献することを理念とします。本研究所では、がん・感染症・生活習慣病など様々な難治疾患を対象として、ビッグデータ・ゲノム編集など最新の技術を駆使して基礎医学研究に取り組んでいます。本授業では、各回、異なる教員がそれぞれ専門の話題を提供し、最前線の研究に触れてもらうことを目的とします。生命科学を飛躍的に発展させたテクノロジーに力点を置いた研究を紹介します。</p>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義形式を予定していますが、積極的な質問を歓迎し、これに対する討論を行うなど、アクティブラーニングを取り入れます。</p>			
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価: 試験 0% レポート 90% 授業への参加度 10%</p> <p>再評価: 有</p>			
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>			
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p>			
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>・定期試験、再試験の受験資格: 原則3分の2以上出席 (レポートにより定期試験、再試験の代替とする。)</p>			
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>内田 智士: uchida.anme@tmd.ac.jp</p> <p>島村 徹平: jimucsb@tmd.ac.jp</p> <p>七田 崇: shichita-tk@cmn.tmd.ac.jp</p> <p>伊藤 暢聡: itostr@tmd.ac.jp</p> <p>高地 雄太: ykochi.gfd@mri.tmd.ac.jp</p>			

二階堂 愛:dritoshi@gmail.com

#### オフィスアワー

内田 智士:毎週月曜～金曜日 AM10:00-PM6:00, M&D タワー24 階北、先端ナノ医工学教室

島村 徹平:AM.10:00-PM.5:00 M&D タワー23 階計算システム生物学分野

七田 崇:毎週月曜日 P.M.2:00-5:00 M&D タワー22F

伊藤 暢聡:平日 PM.2:00-PM.5:00 M&D タワー22 階分子構造情報学教授室

二階堂 愛:毎週月曜日 AM.9:00-PM.10:00 MD タワー24階 2458 (or Zoom)

時間割番号	000729						
科目名	主題別選択Ⅱ(危険物の科学)				科目ID	LA-310126-Z	
担当教員	勝又 敏行[KATSUMATA TOSHIYUKI]						
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3				
実務経験のある教員による授業							
<p>曜日・時間:木曜日 2限</p> <p>対象学科:医学科、歯学科</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>別表1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する</p> <p>別表1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p>							
<b>授業の目的、概要等</b>							
<p>化学物質を扱うために、安全や環境保護など様々な理由から法による規制が行われている。その中で火災予防を目的として危険物が消防法により規定され、その取り扱いの監督者には資格が必要となる。危険物の化学的性質やその火災事例、消火法などを講義形式で紹介していく。最後にグループ討論を行い安全について議論してもらう。</p>							
<b>授業の到達目標</b>							
<p>危険物の安全な取扱方法を理解し、レポートにまとめることができる。</p> <p>GPA における「B」の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。</p>							
<b>授業計画</b>							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/30	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	化学物質と法律	化学物質と法律について	勝又 敏行	化学物質と法律について理解する。講義による。出席 2/3 以上
2	6/13	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	燃焼とは何か	燃焼とは何かについて	勝又 敏行	燃焼とは何かについて理解する。講義による。出席 2/3 以上
3	6/20	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	火災と消火	火災と消火について	勝又 敏行	火災と消火について理解する。講義による。出席 2/3 以上
4	6/27	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	危険物第1~3 類	危険物第1~3 類について	勝又 敏行	危険物第1~3 類について理解する。講義による。出席 2/3 以上
5	7/4	10:05- 10:55	遠隔授業(同期型)	危険物第4~6類	危険物第4~6類について	勝又 敏行	危険物第4~6 類について理解す



			型)				る。講義による。出席 2/3 以上
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	ディスカッション	ディスカッション	勝又 敏行	化学物質取り扱いについてグループでのディスカッションを行う。アクティブラーニング、出席 2/3 以上
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	プレゼンテーション	プレゼンテーション	勝又 敏行	ディスカッションをしたくないようについてプレゼンテーションを行う。アクティブラーニング、出席 2/3 以上
<b>授業方法</b>							
講義形式一部アクティブラーニングを取り入れる。							
<b>授業内容</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係法令</li> <li>2. 危険物とは何か</li> <li>3. 消火法について</li> <li>4. 第1類～第2類の性質、事故事例等</li> <li>5. 第3類～第4類の性質、事故事例等</li> <li>6. 第5類～第6類の性質、事故事例等</li> <li>7. グループ討論</li> </ol>							
<b>成績評価の方法</b>							
<p>評価: 試験 0%、レポート 50%、出席、授業への参加度(グループ討論などを含む)等 50%</p> <p>レポートの内容および授業への参加度を考慮し、以上の通りとする。</p>							
<b>成績評価の基準</b>							
「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による							
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>							
講義に興味を持った項目について調べ、次の授業に臨んでください。							
<b>参考書</b>							
基礎火災現象原論／James G.Quintiere 著,大宮喜文, 若月薫 訳,: 共立出版, 2009							
<b>連絡先(メールアドレス)</b>							
勝又 敏行:katsumata.las@tmd.ac.jp							
<b>オフィスアワー</b>							
勝又 敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室							

時間割番号	000732																																										
科目名	主題別選択Ⅱ(民主主義を再考する)	科目ID	LA-310132-Z																																								
担当教員	藤井 達夫[FUJII Tatsuo]																																										
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																								
実務経験のある教員による授業																																											
曜日・時間: 木曜 2 限 対象学科: 医・歯学科 募集人数: 25 人 科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)1-1)、1-2)、1-3)、1-4)、1-5)、1-9)、2-4)、3-5)																																											
<b>主な講義場所</b> Zoom でのオンライン授業																																											
<b>授業の目的、概要等</b> 民主主義は今、危機にあります。その危機は二つの方面から到来しています。一つは、民主主義国の国内から。欧米の民主主義諸国は軒並みポピュリズム化し、権威主義的自由主義に飲み込まれつつあります。もう一つは、中国をはじめとする非民主主義国の台頭です。非民主主義的権威主義国家の国際社会でのプレゼンスの増大は、外側から民主主義諸国を動揺させ始めています。「もしかして、民主主義は時代遅れなのか?」と。そこで、民主主義の理念と制度の基礎を押さえつつ、今年度は、世界のそして日本の民主主義が機能不全に陥った原因について検討します。批判の焦点は近代民主主義の制度的基礎である代表制度——選挙と政党——です。そしてポスト代表制度の民主主義はどうあるべきかについて議論することで、これからの私たちの社会を立て直す道筋を履修生の皆さんと一緒に考えます。																																											
<b>授業の到達目標</b> (1)民主主義理論の基本的な理解を習得し、現代の社会が抱える問題について議論することができる。 (2)人権、社会的公正さといった規範的な視点から現代社会のあるべき姿について検討し、議論することができる。																																											
<b>授業計画</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>藤井 達夫</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																							
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																							
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																							
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																							
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																							
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																							
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																							
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																							
<b>授業方法</b> 講義形式と授業内での質疑応答。ただし、履修者の人数によっては、セミナー形式をとる場合もあります。																																											
<b>授業内容</b> 第1回 民主主義は地球温暖化に対応できるのか?——中国的権威主義モデルの誘惑—— 第2回 なぜ、選挙に行かなければならないのか?——代表制民主主義の仕組みについて 第3回 なぜ、選挙に行かないのか?——代表制民主主義の現状とポピュリズム 第4回 民主主義はもう古い?①——歴史的理由																																											

<p>第5回 民主主義はもう古い?②——未来との関係</p> <p>第6回 民主主義の始まりに立ち返る——古代の民主主義</p> <p>第7回 民主主義を刷新する——ポスト代表制度の民主主義</p> <p>※以上の授業計画には、変更の可能性があります。</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価:レポート 80%・その他(授業での取り組み)20%</p> <p>再評価:有(再評価方法)レポート</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の内容を理解し、リアクションペーパーおよびレポートにその理解を再現できる。</li> <li>・講義の内容を参照しつつ、リアクションペーパーおよびレポートにおいて現代社会の問題点を社会学的視座から指摘し検討できる。</li> </ul>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p>
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>全授業回数の 2/3 以上の出席を単位認定の条件とします。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>代表制民主主義はなぜ失敗したのか／藤井達夫著,藤井, 達夫,.;集英社, 2021</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>不平等を考える: 政治理論入門／斎藤純一 著,斎藤／純一(1958~),.;筑摩書房</p> <p>ポピュリズムとは何か: 民主主義の敵か, 改革の希望か／水島治郎 著,水島／治郎,.;中央公論新社</p> <p>代議制民主主義: 「民意」と「政治家」を問い直す／待鳥聡史 著,待鳥／聡史,.;中央公論新社</p> <p>「平成」の正体: なぜこの社会は機能不全に陥ったのか／藤井達夫著,藤井, 達夫,.;イースト・プレス, 2018</p> <p>市民的不服従／ウィリアム・E・シヨイアマン著; 井上弘貴, 藤井達夫, 秋田真吾訳,Scheuerman, William E.,井上, 弘貴,藤井, 達夫,秋田, 真吾,森, 達也,安藤, 丈将,.;人文書院, 2022</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>出欠・遅刻の扱いについては、該当する規則に従います。ただし、教員自身が出欠を取る場合もあります。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>藤井 達夫:fujii.las@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>藤井 達夫:毎週月曜日 12:00—13:00(管理棟 2 階)</p>

時間割番号	000736																																																								
科目名	主題別選択Ⅱ(医歯系のための物理)	科目ID	LA-310117-Z																																																						
担当教員	檜枝 光憲[HIEDA MITSUNORI]																																																								
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																																						
実務経験のある教員による授業																																																									
<p>曜日・時間:木曜2限</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表2-1)別表2-2)別表2-4)別表4-2)</p>																																																									
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>医療は物理学と大いに関係しています。例えば、人体の動きや歯の矯正治療は力学が関係しており、医療でお馴染みの X 線、MRI、レーザーなど現代医療技術は物理学者によって発見されました。本授業は講義形式で進め、医歯学に関係した物理について理解を深めていきます。</p>																																																									
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>医歯学に関係した物理を習得する。</p> <p>各授業で設定したテーマについて演習(小レポート)を実施するのでそれらについて解答し、総合点(レポート+参加度)で合格点以上をとること。</p> <p>総合点 70~80 点を B 評価とする。</p>																																																									
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>医歯系のための物理 1:力学</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>医歯系のための物理 2:流体</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>医歯系のための物理 3:熱</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>医歯系のための物理 4:音</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>医歯系のための物理 5:光</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>医歯系のための物理 6:磁気</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>医歯系のための物理 7:放射線</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>まとめ</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 1:力学	檜枝 光憲	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 2:流体	檜枝 光憲	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 3:熱	檜枝 光憲	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 4:音	檜枝 光憲	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 5:光	檜枝 光憲	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 6:磁気	檜枝 光憲	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 7:放射線	檜枝 光憲	8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	まとめ	檜枝 光憲
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																																				
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 1:力学	檜枝 光憲																																																				
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 2:流体	檜枝 光憲																																																				
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 3:熱	檜枝 光憲																																																				
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 4:音	檜枝 光憲																																																				
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 5:光	檜枝 光憲																																																				
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 6:磁気	檜枝 光憲																																																				
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	医歯系のための物理 7:放射線	檜枝 光憲																																																				
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	まとめ	檜枝 光憲																																																				
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義と演習</p>																																																									
<p><b>授業内容</b></p> <p>1. 医歯系のための物理 1:力学</p>																																																									

<p>2. 医歯系のための物理 2: 流体</p> <p>3. 医歯系のための物理 3: 熱</p> <p>4. 医歯系のための物理 4: 音</p> <p>5. 医歯系のための物理 5: 光</p> <p>6. 医歯系のための物理 6: 磁気</p> <p>7. 医歯系のための物理 7: 放射線</p> <p>8. まとめ</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>授業の到達目標の達成度を主に授業毎に提出してもらった演習内容(小レポート)によって評価する。</p> <p>評価 : レポート 80 %  その他(授業の参加度) 20%</p> <p>再評価: 有</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>予習として関連の参考書や他の関連図書を探して読むこと。</p>
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>試験は実施しないが、原則 2/3 以上の出席が必要</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>生物学と医学のための物理学／Paul Davidovits 著, 曾我部正博 監訳, 吉村建二郎 編集協力, : 共立出版, 2015</p> <p>物理学入門から医用物理へ : 超音波、磁気共鳴、X線理解のために／本間康浩 著, : プイツーソリューション, 2013</p> <p>医療系のための物理／佐藤幸一, 藤城敏幸 著, : 東京教学社, 2013</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取る出欠を優先させる。</p>
<p><b>備考</b></p> <p>2019～2022 年度の学生授業アンケートで授業に関する問題点の指摘は特に無かった。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>檜枝 光憲:hieda.las@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>檜枝 光憲:毎週水曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 3</p>

時間割番号	000737																																																		
科目名	主題別選択Ⅱ(人体・医療の物理)	科目ID	LA-310118-Z																																																
担当教員	檜枝 光憲[HIEDA MITSUNORI]																																																		
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																																
実務経験のある教員による授業																																																			
<p>曜日・時間:木曜2限</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表2-1)別表2-2)別表2-4)別表4-2)</p>																																																			
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>生命も含め物質現象は物理学の原理と大いに関係しています。例えば人体の動きや歯の矯正治療は力学、血流の流れは流体力学、また体内に取り込み消費するエネルギーは熱力学の原理に従っています。また、X線、MRI、重粒子線治療など多くの現代医療測定技術は物理学の成果です。本授業は講義形式で進め、人体や医歯学に関係した物理を学んでいきます。</p>																																																			
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>人体・医療に関係した物理を習得する。</p> <p>各授業で設定したテーマについて演習(小レポート)を実施するのでそれらについて解答し、総合点(レポート+参加度)で合格点以上をとること。</p> <p>総合点 70~80 点を B 評価とする。</p>																																																			
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>授業題目</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>力学と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>流体と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>熱と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>音と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>光と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>磁気と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>放射線と人体・医療</td> <td>檜枝 光憲</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	力学と人体・医療	檜枝 光憲	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	流体と人体・医療	檜枝 光憲	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	熱と人体・医療	檜枝 光憲	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	音と人体・医療	檜枝 光憲	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	光と人体・医療	檜枝 光憲	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	磁気と人体・医療	檜枝 光憲	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	放射線と人体・医療	檜枝 光憲
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員																																														
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	力学と人体・医療	檜枝 光憲																																														
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	流体と人体・医療	檜枝 光憲																																														
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	熱と人体・医療	檜枝 光憲																																														
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	音と人体・医療	檜枝 光憲																																														
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	光と人体・医療	檜枝 光憲																																														
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	磁気と人体・医療	檜枝 光憲																																														
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	放射線と人体・医療	檜枝 光憲																																														
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義と演習</p>																																																			
<p><b>授業内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 力学と人体・医療</li> <li>2. 流体と人体・医療</li> <li>3. 熱と人体・医療</li> <li>4. 音と人体・医療</li> <li>5. 光と人体・医療</li> <li>6. 磁気と人体・医療</li> <li>7. 放射線と人体・医療</li> </ol>																																																			

<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>授業の到達目標の達成度を主に授業毎に提出してもらう演習内容(小レポート)によって評価する。</p> <p>評価 : レポート 80 %            その他(授業の参加度) 20%</p> <p>再評価: 有</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>予習として関連の参考書や他の関連図書を探して読むこと。</p>
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>試験は実施しないが、原則 2/3 以上の出席が必要</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>生物学と医学のための物理学／Paul Davidovits 著,曾我部正博 監訳,吉村建二郎 編集協力,：共立出版, 2015</p> <p>物理学入門から医用物理へ : 超音波、磁気共鳴、X線理解のために／本間康浩 著,：ブイツーソリューション, 2013</p> <p>医療系のための物理／佐藤幸一, 藤城敏幸 著,：東京教学社, 2013</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取ると出欠を優先させる。</p>
<p><b>備考</b></p> <p>2019～2022 年度の学生授業アンケートで授業に関する問題点の指摘は特に無かった。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>檜枝 光憲:hieda.las@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>檜枝 光憲:毎週水曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 3</p>

時間割番号	000740																																															
科目名	主題別選択Ⅱ(小説の言語と演劇の言語)	科目ID	LA-310548-Z																																													
担当教員	木谷 真紀子[KITANI Makiko]																																															
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																													
実務経験のある教員による授業																																																
<p>別表 1-1) 言語を通じた人間の創造的営みを理解する</p> <p>別表 1-3) 人間の歴史的営みを理解する</p> <p>別表 1-5) 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p> <p>別表 1-6) 優れた芸術作品に触れて完成を高める</p> <p>別表 1-7) 人間の心への理解を高める</p> <p>別表 1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>別表 3-2) 自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける</p>																																																
<b>主な講義場所</b> オンライン。																																																
<b>授業の目的、概要等</b> 私たちは「言語」を用いながらも、「言語」以外の情報から判断することも少なくない。ある程度文化的な背景を共有していれば、非言語的感覚の共有によって意思の疎通が可能になるだろう。そこで本授業では、小説と戯曲(演劇脚本形態の文学作品)の両方を精読することによって、言語が唯一の情報となる小説の「言語」と、身体表現によってさまざまな情報が補われる演劇の「言語」を比較、分析する。授業を通して、受講者が、「そもそも『言語』とは何なのか」を考え、その答えを共有する契機としたい。																																																
<b>授業の到達目標</b> ①日本近代文学を代表する小説と戯曲の両方を読む。 ②精読を通じ、小説と戯曲の中の「言語」について考察する。 ③「言語の役割」について、受講者自身が現時点での答えを得る。																																																
<b>授業計画</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																												
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																												
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																												
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																												
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																												
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																												
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																												
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																												
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																												
<b>授業方法</b> 授業で扱う作品を精読して授業に臨む。授業はアクティブラーニングの形式を取り入れ、作品と映像化作品の両方について																																																



コメントシートなど課題を提出する。授業では毎回、リアクションペーパーを課す。
<b>授業内容</b> 1) ガイダンス 2) ピエール・ロチ『秋の日本』① 3) ピエール・ロチ『秋の日本』② 4) 芥川龍之介『舞踏会』① 5) 芥川龍之介『舞踏会』② 6) 三島由紀夫『鹿鳴館』① 7) 三島由紀夫『鹿鳴館』② 8) 総括
<b>成績評価の方法</b> 期末レポート 60% ・ その他(授業への参加度、毎授業でのリアクションペーパー、提出物など)40% 再評価: 有(再レポート)
<b>成績評価の基準</b> 「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 作品を精読し、授業に臨むこと。コメントシートなど課題は、期日を守って提出すること。
<b>試験の受験資格</b> 3分の2以上の授業に出席していること。 10分以内の遅刻、早退は、3回で1回分の欠席としてカウントする。
<b>教科書</b> 秋の日本／ピエール・ロチ [著]; 村上菊一郎, 吉永清訳: 角川書店, 1953 鹿鳴館／三島由紀夫著: 新潮社, 1984 芥川龍之介「秋」は授業内で配布する。
<b>参考書</b> 必要に応じて授業内で配布。
<b>履修上の注意事項</b> 授業内で扱う作品数は、進行度で変化する。 出欠は毎回取るが、出欠そのものよりも、授業内アンケートやリアクションペーパーの内容を重要視、未提出の場合は欠席とする。
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 木谷 真紀子:makiko.las@tmd.ac.jp
<b>オフィスアワー</b> 木谷 真紀子:月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2 階 ※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。

時間割番号	000742			
科目名	主題別選択Ⅱ(発がんと確率過程)	科目ID	LA-310550-Z	
担当教員	中林 潤[NAKABAYASHI Junn]			
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3	
実務経験のある教員による授業				
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1)				
<b>主な講義場所</b>				
同期型遠隔授業やオンデマンド講義を行う				
<b>授業の目的、概要等</b>				
分子生物学の発展によって発がんのプロセスの詳細は分子のレベルで明らかとなりつつあるが、がん細胞が生体内で発生してから臨床的にがんと診断されるまでには、がん細胞が増殖し、周囲の細胞へ影響を与え、また免疫細胞から逃れたり、複雑なプロセスを経る必要があり、いまだに不明な点が数多く残されている。発がんのプロセスの全容を解明するためには、分子生物学だけでなく様々な視点から発がんのプロセスを捉えることが必要である。この講義では数理科学的な観点から発がんのプロセスを理解するための理論について解説する。				
<b>授業の到達目標</b>				
がん細胞の発生、増殖、がん組織の進展など発がんのプロセスの諸過程を記述する数理モデルについて、その理論を理解する。				
<b>授業計画</b>				
回	日付	時刻	講義室	担当教員
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
<b>授業方法</b>				
講義とアクティブラーニングを行う				
<b>授業内容</b>				
発がんのプロセスの諸過程を数理モデルで記述し、解析手法について解説する。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率論の基礎</li> <li>・確率過程</li> <li>・がんの基礎知識</li> <li>・ライトフィッシャーモデル</li> <li>・モランモデル</li> </ul>				
<b>成績評価の方法</b>				

出席、レポート、筆記試験などを参考に総合的に判断する。
<b>成績評価の基準</b> 「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則別表 2」による
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 事前準備は特に不要であるが、講義で習ったことを各自しっかりと復習すること
<b>試験の受験資格</b> 講義全体の 3 分の 2 以上の出席
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 中林 潤:nakab.las@tmd.ac.jp
<b>オフィスアワー</b> 中林 潤:月曜～金曜 A.M.10:00 – P.M. 05:00 国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9

時間割番号	000743																																										
科目名	主題別選択Ⅱ(視覚情報と言語)	科目ID	LA-310551-Z																																								
担当教員	木谷 真紀子[KITANI Makiko]																																										
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																								
実務経験のある教員による授業																																											
<p>別表 1-1) 言語を通じた人間の創造的営みを理解する</p> <p>別表 1-3) 人間の歴史的営みを理解する</p> <p>別表 1-5) 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p> <p>別表 1-6) 優れた芸術作品に触れて完成を高める</p> <p>別表 1-7) 人間の心への理解を高める</p> <p>別表 1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>別表 3-2) 自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける</p>																																											
<b>主な講義場所</b> オンライン。																																											
<b>授業の目的、概要等</b> 私たちは「言語」を用いながらも、「言語」以外の情報から判断材料を得ようとすることが多い。ではその情報を得られない人には、どのように伝えるのか。本授業では、目の見えない人物が登場する文学作品から「言語による情報のみで表現する」場合と、「言語を含む情報で表現する」場合の、作家の言語の扱いについて考察する。可能であれば、授業内で「見えない」状況を作り、それを言語のみで正しく伝える試みも企画している。授業を通して、受講者が、「そもそも『言語』とは何なのか」を考え、その答えを共有する契機としたい。																																											
<b>授業の到達目標</b> ① 古典と日本近代文学を代表する作品の両方を読む。 ② 「言語」とそれ以外の機能について考察する。 ③ 「言語の役割」について、受講者自身が現時点での答えを得る。																																											
<b>授業計画</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>木谷 真紀子</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																							
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																							
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																							
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																							
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																							
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																							
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																							
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																							
<b>授業方法</b> 扱う作品を精読して授業に臨むこと。授業はアクティブラーニングの形式を取り入れ、作品と映像化作品の両方についてコメントシートなど課題を提出する。授業では毎回、リアクションペーパーを課す。																																											

<p><b>授業内容</b></p> <p>1) ガイダンス</p> <p>2) 謡曲「弱法師」</p> <p>3) 日本の伝統芸能について</p> <p>4) 説経節「しんとく」</p> <p>5) 三島由紀夫「弱法師」①</p> <p>6) 三島由紀夫「弱法師」②</p> <p>7) 総括</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>期末レポート 60% ・ その他(授業への参加度、毎授業でのリアクションペーパー、提出物など) 40%</p> <p>再評価: 有(再レポート)</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>必ず作品を精読して臨み、コメントシートなど課題は必ず期日を守って提出すること</p>
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>3分の2以上の授業に出席していること。</p> <p>10分以内の遅刻、早退は、3回で1回分の欠席としてカウントする。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>近代能楽集／三島由紀夫: 新潮社</p> <p>謡曲「弱法師」、説経節「しんとく」は授業内で配布。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>必要に応じて授業内で配布</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>授業内で扱う作品数は、進行度で変化する。 出欠は毎回取るが、出欠そのものよりも、授業内アンケートやリアクションペーパーの内容を重要視し、未提出の場合は「欠席」とする。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>木谷 真紀子:makiko.las@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>木谷 真紀子:月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2階</p> <p>※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。</p>

時間割番号	000745			
科目名	主題別選択Ⅱ(数理で理解する発がん)	科目ID	LA-310553-Z	
担当教員	中林 潤[NAKABAYASHI Junn]			
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3	
実務経験のある教員による授業				
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1)				
<b>主な講義場所</b>				
同期型遠隔授業やオンデマンド講義を行う				
<b>授業の目的、概要等</b>				
がん細胞は体細胞の遺伝子に変異が蓄積することによって生じる。遺伝子の変異は偶然によって生じる確率的な事象である。確率的な現象の時間発展は確率過程として記述される。この講義では発がんのプロセスを確率過程として記述し、解析する手法について説明する。				
<b>授業の到達目標</b>				
発がんのプロセスを確率過程として記述し、解析するために必要な理論について理解する。				
<b>授業計画</b>				
回	日付	時刻	講義室	担当教員
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	中林 潤
<b>授業方法</b>				
講義とアクティブラーニングを行う。				
<b>授業内容</b>				
発がんのプロセスを体細胞の遺伝子に突然変異が蓄積する確率的な事象として捉え、その時間発展である確率過程の理論について説明する。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率論の基礎</li> <li>・確率過程</li> <li>・がんの基礎知識</li> <li>・ランダムウォーク</li> <li>・ライトフィッシャーモデル</li> <li>・ Moranモデル</li> </ul>				
<b>成績評価の方法</b>				
出席、レポート、筆記試験などを参考に総合的に判断する。				
<b>成績評価の基準</b>				

「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則別表 2」による

**準備学習等についての具体的な指示**

事前準備は不要であるが、講義で習ったことを各自しっかり復習すること

**試験の受験資格**

講義全体の 3 分の 2 以上の出席

**連絡先(メールアドレス)**

中林 潤:nakab.las@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

中林 潤:月曜～金曜

A.M.10:00 - P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9

時間割番号	000746																																															
科目名	主題別選択Ⅱ(外国につながる多様な人々と医療)	科目ID																																														
担当教員	伴野 崇生[TOMONO Takao]																																															
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																													
実務経験のある教員による授業																																																
<p>曜日・時間:木曜 2 限</p> <p>対象学科:医学部医学科、歯学部歯学科</p> <p>募集人数: 40 人</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-1) 言語を通じた人間の創造的営みを理解する</p> <p>1-2) 社会制度や仕組みについての基本を理解する</p> <p>1-4) 異なる空間の文化を理解する</p> <p>1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p> <p>1-7)人間の心への理解を深める</p> <p>2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける</p>																																																
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>この授業では、日本で暮らす「外国につながる言語文化的に多様な人々」(日本国籍者も含む)について、特に医療の観点から考えていきます。医療に関わるみなさんが今後どのように「外国につながる人々」と関わっていききたいか／関わっていかれるか／関わっていくことが求められるかについて自分自身の「やり方」と「あり方」を講義と対話を通じて検討し、意識化・言語化していきます。クラスで検討したいトピックがある場合には第一回の授業時にお知らせください。</p>																																																
<p><b>授業の到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国につながる人々が置かれている状況について医療と関連づけながら説明できる</li> <li>2. 外国につながる人々の医療に関する情報を必要に応じて検索したり関連機関に問い合わせたりすることで自ら得ることができる</li> <li>3. 外国につながる人々との自らの関わり方について言語化し、人に説明することができる</li> </ol>																																																
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																												
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																												
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																												
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																												
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																												
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																												
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																												
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																												
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																												



<p><b>授業方法</b></p> <p>講義、アクティブラーニングの形式を取り入れたディスカッション、質疑応答、グループディスカッションの全体共有</p>
<p><b>授業内容</b></p> <p>①2つの異なる文化の見方 ――文化の中に人がいるか人の中に文化があるか</p> <p>②在留資格と日本の医療制度・多文化共生と医療</p> <p>③医療通訳と第三者返答</p> <p>④やさしい日本語と医療</p> <p>⑤国際移動とメンタルヘルス</p> <p>⑥「移民の女性化」と医療</p> <p>⑦日本で働く「外国人材」と医療</p> <p>⑧まとめ――日本社会と「移民・難民」</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価： レポート 40%、授業への参加度（リアクションペーパー含む）30%、課題 30%</p> <p>再評価： 有（試験もしくはレポート）</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>初回のための予習：文化とは何か、異文化とは何かについて自分自身の考えを言語化しておいてください。</p> <p>第2回以降：毎回短い動画(10分-15分程度)の視聴をお願いします。</p> <p>毎回の復習：リアクションペーパー</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>なし(全てオリジナル教材で授業を進めます)</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>&lt;外国人患者の受入れのための医療機関向けマニュアル&gt;  <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000795505.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000795505.pdf</a></p> <p>&lt;厚生労働省「医療通訳に関する資料 一覧」&gt; <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000056944.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000056944.html</a></p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>原則的に3分の2以上の出席を期末考査・再考査等の受験資格とする。</p>
<p><b>備考</b></p> <p>キーワード：内なるグローバル化、社会言語文化的多様性と医療、在留資格、医療通訳、移民・難民、移民の女性化</p>

時間割番号	000747																																										
科目名	主題別選択Ⅱ(外国につながる多様な人々と教育)	科目ID																																									
担当教員	伴野 崇生[TOMONO Takao]																																										
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																								
実務経験のある教員による授業																																											
<p>曜日・時間:木曜 2 限</p> <p>対象学科:医学部医学科、歯学部歯学科</p> <p>募集人数: 40 人</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-1) 言語を通じた人間の創造的営みを理解する</p> <p>1-2) 社会制度や仕組みについての基本を理解する</p> <p>1-4) 異なる空間の文化を理解する</p> <p>1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p> <p>1-7)人間の心への理解を深める</p> <p>2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける</p>																																											
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>この授業では、日本で暮らす「外国につながる言語文化的に多様な人々」(日本国籍者も含む)について、特に教育の観点から考えていきます。医療に関わるみなさんが今後どのように関わっていきたいか／関わっていけるか／関わっていくことが求められるかについて自分自身の「やり方」と「あり方」を講義と対話を通じて検討し、意識化・言語化していきます。クラスで検討したいピックがある場合には第一回の授業時にお知らせください。</p>																																											
<p><b>授業の到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国につながる人々が置かれている状況について教育と関連づけながら説明できる</li> <li>2. 外国につながる人々の教育に関する情報を必要に応じて検索したり関連機関に問い合わせたりすることで自ら得ることができる</li> <li>3. 外国につながる人々との自らの関わり方について言語化し、人に説明することができる</li> </ol>																																											
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>伴野 崇生</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																							
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																							
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																							
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																							
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																							
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																							
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																							
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	伴野 崇生																																							

<p><b>授業方法</b></p> <p>講義、アクティブラーニングの形式を取り入れたディスカッション、質疑応答、グループディスカッションの全体共有</p>
<p><b>授業内容</b></p> <p>①2つの異なる文化の見方 ――文化の中に人がいるか人の中に文化があるか</p> <p>②外国につながる子どもたちと日本語</p> <p>③外国につながる子どもたちと継承語</p> <p>④外国につながる子どもたちと教育制度</p> <p>⑤子どもたちのことばとアイデンティティ</p> <p>⑥外国につながる大人たちと教育・ボランティアによる学習支援</p> <p>⑦まとめ――越境と教育</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価：レポート 40%、授業への参加度（リアクションペーパー含む）30%、課題 30%</p> <p>再評価：有（試験もしくはレポート）</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>初回のための予習：文化とは何か、異文化とは何かについて自分自身の考えを言語化しておいてください。</p> <p>第2回以降：毎回短い動画(10分-15分程度)の視聴をお願いします。</p> <p>毎回の復習：リアクションペーパー</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>なし(全てオリジナル教材で授業を進めます)</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>&lt;外国人児童生徒等教育の現状と課題&gt;</p> <p><a href="https://www.mext.go.jp/content/20210526-mxt_kyokoku-000015284_03.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20210526-mxt_kyokoku-000015284_03.pdf</a></p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>原則的に3分の2以上の出席を期末考査・再考査等の受験資格とする。</p>
<p><b>備考</b></p> <p>キーワード：内なるグローバル化、社会言語文化的多様性と教育、教育制度、ことばとアイデンティティ、外国につながる子ども、外国につながる大人、ボランティア</p>

時間割番号	000748																																															
科目名	主題別選択Ⅱ(医療行動経済学における患者の意思決定)	科目ID																																														
担当教員	鶴田 まなみ[TSURUTA Manami]																																															
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																													
実務経験のある教員による授業																																																
<p>曜日・時間:木曜 2 限</p> <p>対象学科:医学科・歯学科</p> <p>募集人数:40 人</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-5), 1-7)</p>																																																
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>行動経済学では、合理的な意思決定から系統的に逸脱する傾向、すなわち意思決定のバイアスについての研究がなされている。本講義では、医療現場で起こる行動経済学的な意思決定のバイアスを学ぶ。まず基本的な行動経済学の枠組みを学び、その後、患者やその家族が意思決定をする際に起きやすいバイアスを学習する。どうすればがん治療で適切な意思決定支援ができるのだろうか、どうすればがん検診の受診率を上げられるのだろうか、などを行動経済学的な枠組みで理解する。</p>																																																
<p><b>授業の到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動経済学の基礎を理解できるようになる</li> <li>2. 医療者として医療現場で起こりやすい意思決定のバイアスを理解できるようになる</li> </ol>																																																
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																												
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																												
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																												
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																												
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																												
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																												
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																												
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																												
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																												
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義形式。アクティブラーニングとして、講義内でのグループワークと講義後のリアクションペーパーの提出を課す。</p>																																																
<p><b>授業内容</b></p>																																																

1. イントロダクション
2. 行動経済学の基礎1
3. 行動経済学の基礎2
4. 医療現場における患者の意思決定1
5. 医療現場における患者の意思決定2
6. 医療現場における患者の意思決定3
7. 医療現場における患者家族の意思決定
8. まとめ

#### 成績評価の方法

評価 : レポート 50%

・その他(講義毎のリアクションペーパーの提出・リアクションペーパーの内容) 50%

再評価: 無

#### 成績評価の基準

「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による

#### 準備学習等についての具体的な指示

講義後に講義の内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。

#### 教科書

特に指定しない

#### 参考書

医療現場の行動経済学 : すれ違う医者と患者 / 大竹文雄, 平井啓編著, 大竹, 文雄, 平井, 啓, : 東洋経済新報社, 2018

実践医療現場の行動経済学 : すれ違いの解消法 / 大竹文雄, 平井啓編著, 大竹, 文雄, 平井, 啓, : 東洋経済新報社, 2022

行動経済学入門 / 筒井義郎 [ほか] 著, 筒井, 義郎, 佐々木, 俊一郎, 山根, 承子, Mardyla, Greg, : 東洋経済新報社, 2017

大竹 文雄・平井 啓 編著『医療現場の行動経済学—すれ違う医者と患者』東洋経済新報社, 2018 年.

大竹文雄・平井啓 編著『実践 医療現場の行動経済学—すれ違いの解消法』東洋経済新報社, 2022 年.

筒井義郎・佐々木俊一郎・山根承子・グレッグ・マルデワ著『行動経済学入門』東洋経済新報社, 2017 年.

#### 履修上の注意事項

リアクションペーパーの提出により出欠を確認する

時間割番号	000749																																										
科目名	主題別選択Ⅱ(医療行動経済学における医療者の意思決定)	科目ID																																									
担当教員	鶴田 まなみ[TSURUTA Manami]																																										
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																								
実務経験のある教員による授業																																											
<p>曜日・時間:木曜 2 限</p> <p>対象学科:医学科・歯学科</p> <p>募集人数:40 人</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-5), 1-7)</p>																																											
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>行動経済学では、合理的な意思決定から系統的に逸脱する傾向、すなわち意思決定のバイアスについての研究がなされている。本講義では、医療現場で起こる行動経済学的な意思決定のバイアスを学ぶ。まず基本的な行動経済学の枠組みを学び、その後、患者やその家族が意思決定をする際に起きやすいバイアスを学習する。どうすればがん治療で適切な意思決定支援ができるのだろうか、どうすればがん検診の受診率を上げられるのだろうか、などを行動経済学的な枠組みで理解する。</p>																																											
<p><b>授業の到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動経済学の基礎を理解できるようになる</li> <li>2. 医療者として医療現場で起こりやすい意思決定のバイアスを理解できるようになる</li> </ol>																																											
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>鶴田 まなみ</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																							
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																							
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																							
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																							
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																							
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																							
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																							
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	鶴田 まなみ																																							
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義形式。アクティブラーニングとして、講義内でのグループワークと講義後のリアクションペーパーの提出を課す。</p>																																											
<p><b>授業内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 行動経済学の基礎1</li> </ol>																																											

<p>3. 行動経済学の基礎2</p> <p>4. 医療現場における患者の意思決定1</p> <p>5. 医療現場における患者の意思決定2</p> <p>6. 医療現場における患者の意思決定3</p> <p>7. 医療現場における患者家族の意思決定</p> <p>8. まとめ</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価 :レポート 50%</p> <p>・その他(講義毎のリアクションペーパーの提出・リアクションペーパーの内容) 50%</p> <p>再評価:無</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>講義後に講義の内容を復習し、リアクションペーパーを提出する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>特に指定しない</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>医療現場の行動経済学：すれ違う医者と患者／大竹文雄，平井啓編著，大竹，文雄，平井，啓，：東洋経済新報社，2018</p> <p>実践医療現場の行動経済学：すれ違いの解消法／大竹文雄，平井啓編著，大竹，文雄，平井，啓，：東洋経済新報社，2022</p> <p>行動経済学入門／筒井義郎 [ほか] 著，筒井，義郎，佐々木，俊一郎，山根，承子，Mardyla，Greg.：東洋経済新報社，2017</p> <p>大竹 文雄・平井 啓 編著『医療現場の行動経済学—すれ違う医者と患者』東洋経済新報社，2018 年.</p> <p>大竹文雄・平井啓 編著『実践 医療現場の行動経済学—すれ違いの解消法』東洋経済新報社，2022 年.</p> <p>筒井義郎・佐々木俊一郎・山根承子・グレッグ・マルデワ著『行動経済学入門』東洋経済新報社，2017 年.</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>リアクションペーパーの提出により出欠を確認する</p>

時間割番号	000754																																															
科目名	主題別選択Ⅱ(生命科学と社会)	科目ID																																														
担当教員	栗田 武[KURITA TAKESHI]																																															
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																													
実務経験のある 教員による授業																																																
<p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-2 社会制度や仕組みについての基本を理解する</p> <p>1-10 現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>2-1 自然現象を科学的に探求するための方法論を知る</p> <p>4-2 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける</p>																																																
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>法則的で体系的な知識を追求する活動は「科学」の名の下に、人々の幸福に寄与する目的で公的な支援を受けています。それでは、科学に従事する人々の活動の実態は一体どのようなものなのでしょうか。それは公共の期待に適ったものなのでしょうか。また、科学の成果は社会規範や世論の形成にどのような影響を与えているのでしょうか。例えば「ジェンダー」「人種」といった社会的概念に、科学的知見はどの様に反映されているのでしょうか。</p> <p>この授業では、担当教員の長年にわたる北米での研究経験を交えて、生命科学の実態を解説します。履修者は、具体的な生命科学的研究例を題材に、科学の本質と社会的な関わりを考察し、批判的思考・論理的思考を駆使してデータを読み解く重要性を学びます。</p>																																																
<p><b>授業の到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学と社会の関わりについての考察を深める。</li> <li>2. 「科学的である」とは具体的にどういうことか、その考察を深める。</li> <li>3. 科学リテラシーを向上させる。</li> <li>4. 知識を積極的に深める方法を身につける。</li> <li>5. 批判的思考の方法を学ぶ。</li> </ol>																																																
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																												
1	4/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																												
2	4/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																												
3	4/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																												
4	4/25	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																												
5	5/2	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																												
6	5/9	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																												
7	5/16	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																												
8	5/23	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																												
<p><b>授業方法</b></p> <p>特定の主題に関して担当教員が、履修者と質疑応答・意見交換をしながらプレゼンテーションを行います。</p>																																																
<p><b>授業内容</b></p> <p>社会に関わる重要なテーマを、生命科学の視点から論じます。現代世界で進行中の問題を優先して取り扱うため、社会情勢に応じて授業内容を変更します。</p> <p>授業で取り扱う可能性があるテーマの例:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ高等教育の実情</li> <li>2. 科学における再現性の危機</li> <li>3. 人種とは何か</li> <li>4. 性とジェンダー</li> <li>5. 放射線とモンスター</li> <li>6. 新型コロナウイルス感染症の起源</li> </ol>																																																



**成績評価の方法**

評価: 出欠 16%、参加度(発言回数・内容・理解度)24%、レポート 60%

毎回の授業では、出席及び発言回数・内容(参加度)を評価します。レポートは、主題の選び方、視点の独自性、参考文献の質・量、内容の正確さ、論理性、明瞭性、を評価します。

再評価: 有

**準備学習等についての具体的な指示**

毎回、次の授業に備えるため、調査課題を出します。できる限り多くの情報源から参考資料をまとめ、議論に参加できる程度まで理解しておいて下さい。その際、必ず英語の情報源を調査に含めてください。毎回の授業で質疑応答を行い、「課題の理解度」「準備の度合い」を評価し、成績に反映させます。

**連絡先(メールアドレス)**

栗田 武: kurita.takeshi@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

栗田 武: 毎週水曜日 PM.1:30-PM. 5:00 ヒポクラテスホール(校舎棟)4階 教官研究室-2

時間割番号	000755																																										
科目名	主題別選択Ⅱ(科学的な正しさとは何か)	科目ID																																									
担当教員	栗田 武[KURITA TAKESHI]																																										
開講時期	2024 年度前期	対象年次	3																																								
実務経験のある教員による授業																																											
<p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-2 社会制度や仕組みについての基本を理解する</p> <p>1-10 現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>2-1 自然現象を科学的に探求するための方法論を知る</p> <p>4-2 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける</p>																																											
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>誰もが一度は、「科学的に証明されている」「科学的根拠をもつ」といったフレーズを耳にしたことがあるでしょう。その際、「どのような科学的証拠があるのだろうか?」と考えたことはあるでしょうか。その「科学的正当性」は、学会や科学者個人の声明に基づいたものかもしれません。しかし、そもそもその科学者の主張はどれほど「公平で客観的」なのでしょう。</p> <p>この授業では、担当教員の長年にわたる北米での研究経験を交え、科学における「正しさ」の実態を解説します。履修者は教員と共に議論することで、科学リテラシーと批判的・論理的思考力の向上を目指します。</p>																																											
<p><b>授業の到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 批判的思考方法を学ぶ。</li> <li>2. 科学リテラシーを向上させる。</li> <li>3. 「科学的である」とは具体的にどういうことか、その考察を深める。</li> <li>4. 知識を積極的に深める方法を身につける。</li> <li>5. 科学と社会の関わりについての考察を深める。</li> </ol>																																											
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5/30</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/13</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6/20</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6/27</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>7/4</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7/11</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/18</td> <td>10:05-10:55</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>栗田 武</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武	7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																							
1	5/30	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																							
2	6/13	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																							
3	6/20	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																							
4	6/27	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																							
5	7/4	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																							
6	7/11	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																							
7	7/18	10:05-10:55	遠隔授業(同期型)	栗田 武																																							
<p><b>授業方法</b></p> <p>特定の主題に関して担当教員が、履修者と質疑応答・意見交換をしながらプレゼンテーションを行います。</p>																																											
<p><b>授業内容</b></p> <p>社会に関わる重要なテーマを、生命科学の視点から論じます。特に現在進行中の問題を優先して取り扱うため、社会情勢に応じて授業内容を変更します。</p> <p>授業で取り扱う可能性があるテーマの例:</p>																																											

<p>1. アメリカで教授になる方法</p> <p>2. 科学における再現性の危機</p> <p>3. 人種とは何か</p> <p>4. 性とジェンダー</p> <p>5. 放射線とモンスター</p> <p>6. 新型コロナウイルス感染症の起源</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>評価: 出欠 14%、参加度(発言回数・内容・理解度)21%、レポート 65%</p> <p>毎回の授業では、出席及び発言回数・内容(参加度)を評価します。レポートは、主題の選び方、視点の独自性、参考文献の質・量、内容の正確さ、論理性、明瞭性、を評価します。</p> <p>再評価: 有</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>毎回、次の授業でのディスカッションに備えるための調査課題を出します。できる限り多くの情報源を参照し、参考資料としてまとめてディスカッションに活用してください。その際、必ず英語の情報源も調査に含めてください。また、「調べたらそれで終わり」にせず、内容を深く理解し、積極的にディスカッションに参加できるように準備してください。毎回の授業で、「課題の理解度」「準備の度合い」を評価し、成績に反映させます。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>適宜、指定します。</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>単位取得には3分の2以上の出席が必要です。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>栗田 武:kurita.takeshi@tmd.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>栗田 武:毎週水曜日 PM.1:30-PM. 5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4階 教官研究室-2</p>

# 主題別人文社会科学セミナー・講義



時間割番号	000801		
科目名	人文社会科学講義(医療と社会)	科目 ID	LA-310201-Z
担当教員	三枝 七都子[SAIGUSA Natsuko]		
開講時期	2024 年度通年	対象年次	3
実務経験のある 教員による授業			
<p>木曜3限: 11:10—12:00</p> <p>対象学科: 医学部医学科・歯学部歯学科</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>別表 1-2)「社会制度や仕組みについての基本を理解する」</p> <p>別表 1-5)「人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る」</p> <p>別表 1-9)「市民としての倫理観を養う」</p> <p>別表 2-3)「言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る」</p>			
<b>授業の目的、概要等</b>			
<p>医療は医療従事者と患者間という個人的なかかわりに焦点があてられがちです。しかし、一歩引いた視点で見ると、医療とは、そうした相互行為だけでは捉えきれない、様々な社会事象と結びついていることに気づくことができます。この授業では、医療社会学という領域であつかわれてきた主題を通して、医療が社会の中で如何にして機能し、そしてそれがどのような社会問題と結びついているのかなどを学びます。具体的には、前半の講義では医療を社会学的な視点で見ることの意義を説明した上で、日本の医療制度の概要について学びます。後半の講義では、医療にまつわる具体的なトピックを取り上げ、受講者同士の議論も交えながら、医療的な視点にとどまらない多角的な視点で事象を捉えていくことに挑戦していきます。</p>			
<b>授業の到達目標</b>			
<p>1) 医療が社会の内部で機能するものであることを理解し、社会にあてる/または社会から受ける影響を説明できる。</p> <p>2) 現在の医療が抱える問題点・課題について説明ができ、その解決に向け多角的な視点から考察し議論することができる。</p>			
<b>授業方法</b>			
<p>授業は一方向の講義だけでなく、学生同士の意見交換もおこない双方向的な学習を目指しています。また、講師も含めた全体での対話も積極的におこない、思考のプロセスを全体で共有しながら、それぞれが考える楽しさを体験できるような授業をしていきます。</p>			
<b>授業内容</b>			
【前半: 講義】			
第 1 回 医療社会学とは			
第 2 回 日本の医療制度について			
【後半: 意見交換】			
第 3 回 トピック①—出生前診断			
第 4 回 障害学についての講義			
第 5 回 トピック②—人工内耳			
第 6 回 全体のまとめ			

第7回 テスト
<b>成績評価の方法</b> 評価 : 試験 60 % ・ その他(授業への参加度:事前学習の取り組みや、議論への参加など)40%
<b>成績評価の基準</b> 「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 授業のなかで適宜予習・復習に必要な資料を提示します。
<b>教科書</b> 教科書は指定しません。授業に必要な文献・資料はその都度コピーして配布します。
<b>参考書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中川輝彦・黒田浩一郎「よくわかる医療社会学」(ミネルヴァ書房、2010年)</li> <li>・猪飼周平「病院の世紀の理論」(有斐閣、2010年)</li> </ul>
<b>履修上の注意事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠管理システムの記録と、教員による出欠調査(リアクションペーパーの提出)を併用します。</li> <li>・議論への積極的な参加を重視します。</li> </ul>

時間割番号	000802		
科目名	人文社会科学講義(医療と法)	科目 ID	LA-310202-Z
担当教員	飛田 綾子[TOBITA AYAKO]		
開講時期	2024 年度通年	対象年次	3
実務経験のある教員による授業			
<p>曜日・時間：木曜 3 限</p> <p>対象学科：医学科・歯学科</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：</p> <p>1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する。</p> <p>1-4)異なる空間の文化を理解する。</p> <p>1-9)市民としての倫理観を養う。</p>			
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>社会保障制度を考えることは、日本のあるべき未来を考えることだと思います。</p> <p>増大する医療費、年金制度への不安、労働環境の悪化、育児環境の不整備など、日本の社会保障はさまざまな問題を指摘されています。</p> <p>また、財政赤字の増大も度々ニュースになっています。</p> <p>こうした問題への適切な処方箋とはいかなるものでしょうか。</p> <p>その答えを導き出すための知識をこの授業では提示したいと思います。</p> <p>具体的には、そもそも社会保障の目的や機能とはなにか、といった議論からはじめ、現在の日本の社会保障制度の概要を説明します。</p> <p>適宜、アメリカやドイツなど他国との比較的視点も盛り込みつつ、日本の抱える問題点についても考えます。</p>			
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>①国民皆保険・皆年金を実現している日本の社会保障制度の全体像を理解する。</p> <p>②各々の社会保障制度が抱えている問題を、財政や制度内の不平等など多角的側面から考察し、説明できるようになる。</p>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>教員が作成したレジュメをもとに、講義形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、具体的問題をディスカッションする機会を適宜実施する予定です。</p>			
<p><b>授業内容</b></p> <p>第 1 回 社会保障制度の概要（社会保障の根底にある思想、社会保障の存在意義など）</p> <p>第 2 回 現役世代と社会保障（医療制度の概要、労働環境の問題点など）</p> <p>第 3 回 子ども世代と社会保障（子ども子育て支援制度の概要、子どもを取り巻く環境について）</p> <p>第 4 回 高齢者世代と社会保障（年金制度・介護保険制度の概要など）</p> <p>第 5 回 少数者と社会保障（障がい者福祉や生活保護の概要など）</p> <p>第 6 回 日本の社会保障について(授業の振り返り)</p> <p>第 7 回 テスト</p>			
<p><b>成績評価の方法</b></p>			



<p>評価：試験 30 % ・ レポート 35 % ・ その他(リアクションペーパー) 35 %</p> <p>再評価： 有(再評価方法 レポート)</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>社会保障に関するニュースは、財源調達のための消費税率の引き上げや診療報酬の改定など、日々様々に伝えられています。そうしたニュースに敏感になり、授業内容と関連付ける習慣を身につけてください。これが予習復習となります。こうしたニュースに関しては、リアクションペーパー等で簡単に記述してもらおうと考えています。レジュメを読み直すことも有用です。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>特に指定しません。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>権文善一『ちょっと気になる社会保障 V3』(勁草書房、2020 年)。同『ちょっと気になる医療と介護 増補版』(勁草書房、2018 年)。井出英策『日本財政 転換の指針』(岩波新書、2013 年)。神野直彦『「人間国家」への改革 参加保障型の福祉社会をつくる』(NHK 出版、2015 年)。</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>履修上の注意事項 ①zoom への出席とリアクションペーパーの提出の両方を揃えて「出席」とします。片方だけでは出席と認めません。 ②出席回数が3分の2以上を満たさないと、テストの受験資格を得られません。 ③遅刻 3 回で欠席 1 回とカウントします。</p>
<p><b>備考</b></p> <p>キーワード: 社会保障、税、財政、功利主義、リベラリズム</p>

時間割番号	000803																																																																													
科目名	主題別人文社会科学セミナー(文化と人間)	科目ID	LA-310203-Z																																																																											
担当教員	藤井 達夫[FUJII Tatsuo]																																																																													
開講時期	2024 年度通年	対象年次	3																																																																											
実務経験のある教員による授業																																																																														
<p>曜日・時間:木曜 3 限</p> <p>受講資格:「文化と人間」選択者</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-3) 人間の歴史的営みを理解する</p> <p>1-4) 異なる空間の文化を理解する</p> <p>1-5) 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p> <p>2-5) 自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う</p>																																																																														
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>本セミナーの目的は以下の二点になる。第一に、履修者の各々が取り上げる具体的な事例から、「文化」とは何かについて考えること。第二に、「文化」をめぐる思考を論文として表現すること。これらの目的を達成するために、セミナーでは、各履修者に関心のある文化的事例のプレゼンテーションをしてもらい、グループ内でのディスカッションを行う。統括セミナーでは、論文のテーマおよび内容をスライドでプレゼンテーションをもらい、セミナー論文を仕上げる。</p>																																																																														
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>1 具体的な事例から文化について掘り下げて考えることができる。</p> <p>2 わかりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる。</p> <p>3 論理的で説得的な文章を書くことができる。</p>																																																																														
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>4/4</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>2</td><td>4/11</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>3</td><td>4/18</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>4</td><td>4/25</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>5</td><td>5/2</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>6</td><td>5/9</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>7</td><td>5/16</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>8</td><td>5/23</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>9</td><td>5/30</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>10</td><td>6/13</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>11</td><td>6/20</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>12</td><td>6/27</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>13</td><td>7/4</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> <tr><td>14</td><td>7/11</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>藤井 達夫</td></tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	2	4/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	3	4/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	4	4/25	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	5	5/2	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	6	5/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	7	5/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	8	5/23	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	9	5/30	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	10	6/13	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	11	6/20	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	12	6/27	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	13	7/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫	14	7/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																																																										
1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
2	4/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
3	4/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
4	4/25	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
5	5/2	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
6	5/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
7	5/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
8	5/23	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
9	5/30	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
10	6/13	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
11	6/20	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
12	6/27	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
13	7/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										
14	7/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫																																																																										

15	7/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
16	9/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
17	9/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
18	9/26	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
19	10/10	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
20	10/17	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
21	10/24	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
22	10/31	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
23	11/14	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
24	11/21	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
25	11/28	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
26	12/5	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
27	12/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
28	12/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
29	1/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫
30	1/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	藤井 達夫

#### 授業方法

履修者のプレゼンテーションとディスカッションによるセミナー形式の授業

#### 授業内容

A～C 班セミナーでは、まずプレゼンテーションをする上での注意すべき点について説明を行う。その上で、履修生各自の関心に基づいて、取り上げたいテーマを設定し、プレゼンテーションをしてもらう。

総括セミナーでは、テーマを掘り下げ、論文の構想についてプレゼンテーションをしてもらう。プレゼンテーションに対する他の履修生および教員のコメントを参考にして、論文を仕上げる。

#### 成績評価の方法

評価: セミナー論文 70%、その他(課題への取り組み, 議論への参加度など)30%

再評価: 有

#### 成績評価の基準

- ・論文の書式や脚注の形式をしっかりと守った上で、論理的で説得力のある論文を書くことができる。
- ・授業内で提示された課題を適切に消化できる。

#### 準備学習等についての具体的な指示

セミナーでのプレゼンテーションの準備とセミナー内で提示される課題の取り組み

#### 試験の受験資格

初回オリエンテーションに出席した上で、セミナー(7回)、医療と法(7回)、医療と社会(7回)、総括セミナー(8回)のそれぞれについて、3分の2以上の出席があること。

#### 教科書

プリントを配布する。

**参考書**

適宜、セミナー内で紹介していく。

**履修上の注意事項**

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させる。 セミナーでの積極的な参加を重視する。

**備考**

セミナー論文の提出資格：

原則的として初回オリエンテーションに出席した上で、年間授業のそれぞれについて3分の2以上の出席をすること。

**連絡先(メールアドレス)**

fujii.las@tmd.ac.jp

**オフィスアワー**

毎週月曜日 12:00--13:00(管理棟 2 階)

時間割番号	000804												
科目名	主題別人文社会科学セミナー(生命と人間)	科目 ID	LA-310204-Z										
担当教員	宇田川 誠[UDAGAWA Makoto]												
開講時期	2024 年度通年	対象年次	3										
実務経験のある教員による授業													
<p>通年</p> <p>曜日・時間： 木曜 3 限</p> <p>対象学科： 医学科・歯学科</p> <p>受講資格： 主題「生命と人間」選択者</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：</p> <p>1-3)人間の歴史的営みを理解する</p> <p>1-4)異なる空間の文化を理解する</p> <p>1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p> <p>1-7)人間の心への理解を深める</p> <p>1-9)市民としての倫理観を養う</p> <p>1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける</p> <p>2-5)自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う</p>													
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>生命倫理学とは、生命にかかわる倫理的問題を研究対象とする学際的な学問です。</p> <p>生命のはじまりに関わる問題(生殖補助医療、遺伝子操作、人工妊娠中絶など)、生命のおわりに関わる問題(終末期医療、脳死臓器移植、安楽死など)、よりよく人生を生きることに関わる問題(エンハンスメントなど)といったものが生命倫理の問題としてよく注目されますが、それだけではなく、医療資源配分などの公衆衛生に関わる倫理的問題や、研究参加者保護などの医学研究に関わる倫理的問題なども含みます。</p> <p>この授業では、生命倫理に関するテーマを一つ選び、問いを立て、論文を執筆してもらいます。</p> <p>資料を調査し、根拠に基づいて議論を組み立て、他者とのディスカッションを通して議論を洗練させていくという作業を通して、生命倫理の問題について知見を深めてもらいたいと考えています。</p>													
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>(1)「生命と人間」をめぐる諸問題について主な論点を理解し、それらを批判的に検討しながら自分なりに意見を深めることができる</p> <p>(2)自分で問いを立て、資料を調査し、根拠に基づいて自分の主張を論証していくことができる</p> <p>(3)他者と建設的な議論ができる</p> <p>(4)分かりやすく説得的なプレゼンテーションができる</p> <p>(5)学術的な作法に則って文章を書くことができる</p>													
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>宇田川 誠</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
回	日付	時刻	講義室	担当教員									
1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠									

2	4/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
3	4/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
4	4/25	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
5	5/2	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
6	5/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
7	5/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
8	5/23	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
9	5/30	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
10	6/13	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
11	6/20	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
12	6/27	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
13	7/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
14	7/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
15	7/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
16	9/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
17	9/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
18	9/26	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
19	10/10	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
20	10/17	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
21	10/24	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
22	10/31	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
23	11/14	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
24	11/21	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
25	11/28	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
26	12/5	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
27	12/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
28	12/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
29	1/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠
30	1/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	宇田川 誠

#### 授業方法

受講者によるプレゼンテーションやディスカッションを中心に進めていきます。

受講者には、セミナー論文で取り上げたいテーマについて報告すること、他の受講者の報告に対して積極的に応答(質問・コメント)することが求められます。

#### 授業内容

初回は全体オリエンテーションとなる。その後は、グループに分かれて「グループ別セミナー」「医療と法」「医療と社会」を順に受講する。最後に全員で「総括セミナー」を受講する。

【グループ別セミナー】論文のまとめ方等について説明する。

その後、受講者にセミナー論文でとりあげたいテーマについて報告してもらい、全体でディスカッションしていく

**【総括セミナー】**

受講生には、グループ別セミナーでのフィードバックを踏まえながら論文の構想について報告してもらおう。

**成績評価の方法**

評価：セミナー論文 60% ・ その他(課題への取り組み・議論への参加度など) 40%

セミナー形式の授業であり、授業への参加度を重視する

**成績評価の基準**

「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による

**準備学習等についての具体的な指示**

受講者には、1人2回セミナー論文で取り上げたいテーマについて報告してもらいます。

各自、資料を調査し、授業で報告する準備をすすめてください。

報告後は、授業中の議論を参考に調査・考察を進め、セミナー論文の執筆に取り組んでください。

また毎回必ず課題の提出が求められます。期限内に提出してください。

**教科書**

教科書は特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

**参考書**

参考書等は授業中に紹介します。

**履修上の注意事項**

セミナー論文の提出資格:3分の2以上の授業に出席していること。出欠については、管理システムより教員自身が取  
る出欠を優先させます。

時間割番号	000805																																																																																																																					
科目名	主題別人文社会科学セミナー(言語と人間)	科目 ID	LA-310205-Z																																																																																																																			
担当教員	木谷 真紀子[KITANI Makiko]																																																																																																																					
開講時期	2024 年度通年	対象年次	3																																																																																																																			
実務経験のある 教員による授業																																																																																																																						
<p>別表 1-1) 言語を通じた人間の創造的営みを理解する                      別表 1-3) 人間の歴史的営みを理解する</p> <p>別表 1-5) 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p> <p>別表 1-6) 優れた芸術作品に触れて完成を高める</p> <p>別表 1-7) 人間の心への理解を高める</p> <p>別表 1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>別表 3-2) 自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける</p>																																																																																																																						
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>アカデミックライティングを身につける。自らが定めたテーマに基づき、「問い」を立て、この 1 年で結論を出すべく、どのような方法で調査、分析、検討、考察するかを考える。自らのテーマに沿った調査方法やデータの収集方法を適切に選択できるよう説明し、考える。</p> <p>論文執筆のための調査、考察、分析、実際の執筆を通し、あらゆる興味が「学問」になること、あらゆる興味を「学問」にすることに肉薄することを目標とする。</p>																																																																																																																						
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>(1)「言語」について考える。</p> <p>(2)自らで問題を設定し、考察、分析したうえで結論を出す能力を養う。</p> <p>(3)人文社会分野の論文を書くさまざまな方法を知る。</p> <p>(4)論理的な文章を書く力を身につける。</p>																																																																																																																						
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>4/4</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>2</td><td>4/11</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>3</td><td>4/18</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>4</td><td>4/25</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>5</td><td>5/2</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>6</td><td>5/9</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>7</td><td>5/16</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>8</td><td>5/23</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>9</td><td>5/30</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>10</td><td>6/13</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>11</td><td>6/20</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>12</td><td>6/27</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>13</td><td>7/4</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>14</td><td>7/11</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>15</td><td>7/18</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>16</td><td>9/12</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>17</td><td>9/19</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>18</td><td>9/26</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>19</td><td>10/10</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>20</td><td>10/17</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>21</td><td>10/24</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> <tr><td>22</td><td>10/31</td><td>11:10-12:00</td><td>遠隔授業(同期型)</td><td>木谷 真紀子</td></tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	2	4/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	3	4/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	4	4/25	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	5	5/2	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	6	5/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	7	5/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	8	5/23	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	9	5/30	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	10	6/13	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	11	6/20	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	12	6/27	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	13	7/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	14	7/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	15	7/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	16	9/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	17	9/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	18	9/26	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	19	10/10	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	20	10/17	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	21	10/24	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子	22	10/31	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																																																																																																		
1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
2	4/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
3	4/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
4	4/25	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
5	5/2	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
6	5/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
7	5/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
8	5/23	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
9	5/30	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
10	6/13	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
11	6/20	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
12	6/27	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
13	7/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
14	7/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
15	7/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
16	9/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
17	9/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
18	9/26	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
19	10/10	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
20	10/17	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
21	10/24	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		
22	10/31	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子																																																																																																																		



23	11/14	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
24	11/21	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
25	11/28	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
26	12/5	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
27	12/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
28	12/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
29	1/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子
30	1/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	木谷 真紀子

#### 授業方法

講義、全体での討論、発表、個別指導を適宜組み合わせる。提出を前提にして授業を行うため、課題は期限を守って提出すること。

#### 授業内容

全体オリエンテーション

##### 【個別セミナー】

- 2)オリエンテーション:論文とは何か
- 3)テーマ初回提出、文献調査の方法
- 4)アンケート、インタビューなどの調査方法の説明
- 5)アウトライン提出、グループ内発表と意見交換
- 6)アウトライン返却、指導
- 7)中間発表①
- 8)中間発表②

##### 【総括セミナー】

- 9)オリエンテーション
- 10)中間発表をふまえて
- 11)グループごと意見交換
- 12)アウトライン 2 回目提出、引用の方法について
- 13)パラグラフ・ライティング①
- 14)パラグラフ・ライティング②
- 15)自己評価
- 16)一年の総括

なお、各回の授業内容は、受講者の学習状況に即して変更する場合がある。

#### 成績評価の方法

レポート(セミナー論文) 60% ・ その他(他の学生の発表への評価、討論での発言、課題への取り組みなど) 40%

#### 成績評価の基準

「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による

#### 準備学習等についての具体的な指示

ほぼ毎週課題を出す。自分のテーマに関して各週の課題に取り組むだけでなく、クラスメイトのテーマや課題についても意見アドバイスを述べられるようにする。

なお、欠席した場合には、その回のプリントやスライドを次週までによく読んでおくこと。

#### 試験の受験資格

3分の2以上の授業に出席していること。

遅刻、欠席は、2回で1回の欠席としてカウントする。

#### 履修上の注意事項

授業内アンケートや授業内課題の提出によって、「出席」とする。

#### 連絡先(メールアドレス)

makiko.las@tmd.ac.jp

#### オフィスアワー

月、金曜 12:20~13:30 管理研究棟 2 階

※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。

時間割番号	000806																																																									
科目名	主題別人文社会科学セミナー(制度と人間)	科目 ID	LA-310206-Z																																																							
担当教員	面 一也[OMOTE KAZUYA]																																																									
開講時期	2024 年度通年	対象年次	3																																																							
実務経験のある教員による授業																																																										
<p>木曜 3 限</p> <p>対象学科: 医学科、歯学科</p> <p>受講資格: 主題「制度と人間」コースであること。</p> <p>募集人数: 30 人程度</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 1-2), 1-3), 1-5), 2-4), 2-5), 1-9), 3-5)</p>																																																										
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>私たちは日ごろ、政治的・社会的な諸制度との関わりの中で生活している。</p> <p>最初は「人間が制度をつくる」のだが、ひとたび制度ができあがると、今度は制度が人間に影響を及ぼして、いわば「制度が人間をつくる」ようになる。</p> <p>もしその制度に“問題”があるなら、人間はおかしくなってしまうだろう。</p> <p>この授業では、そのような“問題”を自ら発見し、関連する先行研究(文献や資料)を読み、自分自身の考えによる“応答”を、論文にまとめていく。</p> <p>論文には求められる書き方があり、ということは、読み方がある。</p> <p>どのように書いたらよいか、どのような文献や資料を調べたらよいか、といったアドバイスをこなうので、この授業を通じて、論文のよい書き方と読み方を身につけてほしい。</p>																																																										
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>1「制度と人間」に関わる問題を自ら発見する。</p> <p>2 自ら設定した論文のテーマに関連する文献や資料を調べ、それらを正確に読み解き、かつ批判的に考察する能力を養う。</p> <p>3 以上の成果をセミナー論文にまとめ、論文の書き方と読み方を身につける。</p>																																																										
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/11</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/18</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/25</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/2</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/9</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/16</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5/23</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>5/30</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>6/13</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>面 一也</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也	2	4/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也	3	4/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也	4	4/25	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也	5	5/2	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也	6	5/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也	7	5/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也	8	5/23	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也	9	5/30	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也	10	6/13	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
回	日付	時刻	講義室	担当教員																																																						
1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						
2	4/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						
3	4/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						
4	4/25	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						
5	5/2	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						
6	5/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						
7	5/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						
8	5/23	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						
9	5/30	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						
10	6/13	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也																																																						

11	6/20	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
12	6/27	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
13	7/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
14	7/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
15	7/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
16	9/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
17	9/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
18	9/26	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
19	10/10	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
20	10/17	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
21	10/24	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
22	10/31	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
23	11/14	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
24	11/21	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
25	11/28	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
26	12/5	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
27	12/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
28	12/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
29	1/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也
30	1/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	面 一也

#### 授業方法

セミナー形式で行なう。

受講者は1人につき2回(個別セミナーと総括セミナーで1回ずつ)、セミナー論文の構想について報告が求められる。

授業ではアクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、各構想について議論をするとともに、参考文献や構成等のアドバイスを  
行なう。

また授業後に、リアクション・ペーパーの提出を課す。

#### 授業内容

第 1 回 イントロダクション:論文の基本的な書き方を中心に

第 2-7 回 セミナー論文の構想について報告、議論、アドバイス

以上(第 1-7 回)を、個別セミナーと総括セミナーで、計 2 回行なう。

#### 成績評価の方法

評価 : 試験 % ・ レポート 60% ・ その他(リアクション・ペーパー) 40%

再評価: 有(レポート)

#### 成績評価の基準

「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による

**準備学習等についての具体的な指示**

受講者は1人につき2回、セミナー論文の構想について報告が求められる。

論文の草稿に相当するので、論理的に一貫性のある報告となるように準備すること。

また、他の受講者の報告についても、議論への参加やリアクション・ペーパーによって、積極的な応答が求められる。どのようになれば論文がよりよくなるか、という提案をお互いに行なうことを通じて、論文の質を高めるようにしてほしい。

**試験の受験資格**

3分の1以上の欠席で、論文を提出する資格を失う。

**教科書**

教科書は用いず、必要に応じて文献や資料を配布する。

**参考書**

授業内で適宜指示する。

**履修上の注意事項**

出欠については、出欠管理システムの記録と、教員が授業時にとる出欠とを併用する。

時間割番号	000807												
科目名	主題別人文社会科学セミナー(時間と人間)	科目ID	LA-310207-Z										
担当教員	飯田 卓[IIDA SUGURU]												
開講時期	2024 年度通年	対象年次	3										
実務経験のある教員による授業													
<p>曜日・時間:木曜3限</p> <p>対象学科:医学科・歯学科</p> <p>科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):</p> <p>1-3)人間の歴史的営みを理解する</p> <p>1-4)異なる空間の文化を理解する</p> <p>1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る</p> <p>2-5)自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う</p>													
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>本セミナーでは、時間の観点から人間について考察します。ただし、時間の存在を自明視するわけには行きません。例えば時間を「t」で表し、空間上の軌跡として捉えれば(時間の空間化)、こと足りるといったわけではありません。むしろまず問題にしなければならないのは、「t」で表したり微分操作をしたりする以前の時間であると言えるでしょう。また、人間の意識や行為から独立して時間が存在すると想定したうえで、そのような外在的時間が一方的に人間を規定・拘束する在り方を考察するだけでは不十分でしょう。時間の実在を認める立場には、常識的見方だけでなく、キリスト教における世界創造説、近代以降の大部分の自然科学、多くの人文・社会科学が含まれますが、むしろここでの目的は、そのような立場を批判的に吟味しながら、時間と人間について考察することにあります。</p> <p>時間を実体として捉えるのでもなく、主観や意識に還元するのでもなく、時間と人間について考察しようとするれば、時間の量的側面(物理的・客観的時間等)、または時間の質的側面(過去・現在・未来様相、体験時間等)の一方のみをもって時間の本質とみなしてしまうのではなく、両者の相互反映的な関係を問うことが求められるでしょう。すなわち、時間を二つ以上の出来事(変化・運動)の相関(例えば天体の運動・時計等と人間の意識・行為等との相関)と捉えた上で、両者を媒介するような意味というものに注目し、時間というものが、さまざまな社会・文化・歴史的状況に置かれた人間を経由してはじめてその時間的意味を獲得し(例えば目的・関心によって先取りされる未来との関わりが、「～するのに時間がない」「～までにまだ時間がある」という仕方では時間に実質と意味を与える)、同時にこのような仕方では構成された時間を背景(前提)として、人間(の時間構成)もまた成立するという、いわば自己言及的な循環から時間と人間との関係を考察する必要がある、ということです。時間という概念は、そのうちに人間の意識や行為を含んでいるのです。この意味で、時間への問いとは人間への問いでもあり、その解明の作業は同時に自己反省の作業となるはずです。</p>													
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>(1)変化・運動、継起、同時性、持続、流れ、同一性、瞬間、過去・現在・未来、連続性といった時間に関する基礎概念を身につける。</p> <p>(2)出来事(変化・運動)を時間に置き換えるのではなく、二つ以上の出来事(とくに周期的な出来事)の相関のうちに時間を捉える視点を身につける。</p> <p>(3)人間の時間性について理解する。</p>													
<p><b>授業計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日付</th> <th>時刻</th> <th>講義室</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/4</td> <td>11:10-12:00</td> <td>遠隔授業(同期型)</td> <td>飯田 卓</td> </tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	担当教員	1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
回	日付	時刻	講義室	担当教員									
1	4/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓									

2	4/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
3	4/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
4	4/25	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
5	5/2	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
6	5/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
7	5/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
8	5/23	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
9	5/30	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
10	6/13	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
11	6/20	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
12	6/27	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
13	7/4	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
14	7/11	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
15	7/18	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
16	9/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
17	9/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
18	9/26	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
19	10/10	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
20	10/17	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
21	10/24	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
22	10/31	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
23	11/14	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
24	11/21	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
25	11/28	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
26	12/5	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
27	12/12	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
28	12/19	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
29	1/9	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓
30	1/16	11:10-12:00	遠隔授業(同期型)	飯田 卓

#### 授業方法

アクティブラーニング形式(プレゼンテーション、ディスカッション中心)

#### 授業内容

各回とも受講者各自による発表・質問・ディスカッションが中心となります。前半(グループ別)では、受講者の興味・関心に沿って比較的平易な時間に関する文献をいくつか選び、それらを全員で講読します。具体的には受講者のあいだで分担(発表・質問担当)を決め、発表担当者には PowerPoint を用いて内容の要約と問題提起を行っていただきます。そして発表された内容をもとにディスカッションを行うという仕方です。後半(総括セミナー)では、各自の興味・関心にしたがって研究した成果を発表していただきます。

## 成績評価の方法

評価：試験 0% ・ セミナー論文 70% ・ その他(授業への参加度) 30%

再評価：有(セミナー論文再提出)

## 成績評価の基準

「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則 別表2」による

## 準備学習等についての具体的な指示

配布された文献は、次回までに精読しておいてください。

## 教科書

とくに必要ありません。参考までに、これまでのセミナーで用いた文献(論文集)を一部挙げておきます。広中平祐・井上慎一・金子務[編]『時間と時——今日を豊かにするために』日本学会事務センター学会出版センター(2002年)、村上陽一郎[編]『東京大学教養講座 3 時間と人間』東京大学出版会(1981年)、向坊隆ほか『東京大学公開講座 時間』東京大学出版会(1980年)、伏見康治・柳瀬睦男[編]『時間とは何か』中央公論社(1974年)、渡辺慧・渡辺ドロテア『時間と人間』中央公論社(1979年)、田山忠行[編]『時を編む人間——人文科学の時間論』北海道大学出版会(2015年)、井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉[編]『岩波講座 現代社会学 6 時間と空間の社会学』岩波書店(1996年)、田島節夫・坂本賢三・市川浩・坂部恵・村上陽一郎[編]『講座現代の哲学 1 時間・空間』弘文堂(1977年)、大森荘蔵・滝浦静雄・中村雄二郎・藤沢令夫[編]『新岩波講座哲学 7 トポス 空間 時間』岩波書店(1985年)、小安増生・白井利明[編]『発達科学ハンドブック 3 時間と人間』新曜社(2011年)、橋本毅彦・栗山茂久[編]『遅刻の誕生——近代日本における時間意識の形成』三元社(2001年)、「別冊・数理科学 時間論の諸パラダイム」サイエンス社(2004年)等

## 参考書

教場にて適宜指示しますが、さしあたり以下の文献を挙げておきます。アリストテレス『アリストテレス全集 3 自然学』岩波書店(1987年)、H.ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』ちくま学芸文庫(2002年)、E.フッサール『内的時間意識の現象学』みすず書房(1970年)、M.ハイデガー『存在と時間』岩波文庫(2013年)、E.ミンコフスキー『生きられる時間——現象学的・精神病理学的研究』みすず書房(1972年)、E.マッハ『時間と空間』法政大学出版局(2008年)、P.ホーウィッチ『時間に向きはあるか』丸善(1992年)、R.モリス『時間の矢』地人選書(1987年)、B.リベット『マインド・タイム——脳と意識の時間』岩波書店(2005年)、P.J.ズワルト『時間について』紀伊國屋書店(1980年)、G.J.ウィットロウ『時間 その性質』法政大学出版局(1993年)、J.メイザー『ゼノンのパラドックス——時間と空間をめぐる 2500年の謎』白揚社(2009年)、R.ペドヴィン『時間と空間をめぐる 12の謎』岩波書店(2012年)、B.アダム『時間と社会理論』法政大学出版局(1997年)、渡辺慧『時』河出書房新社(2012年)、大森荘蔵『時間と自我』青土社(1992年)、滝浦静雄『時間』岩波新書(1976年)、植村恒一郎『時間の本性』勁草書房(2002年)、入不二基義『時間は実在するか』講談社現代新書(2002年)、中島義道『「時間」を哲学する』講談社現代新書(1996年)、青山拓央『タイムトラベルの哲学』ちくま文庫(2011年)、野家啓一『物語の哲学』岩波現代文庫(2005年)、真木悠介『時間の比較社会学』岩波現代文庫(2003年)、今村仁司『近代性の構造——「企て」から「試み」へ』講談社選書メチエ(1994年)、木村敏『時間と自己』中公新書(1982年)、広井良典『生命と時間——科学・医療・文化の接点』勁草書房(1994年)、本川達雄『ゾウの時間 ネズミの時間』中公新書(1992年)、森田邦久編著『〈現在〉という謎——時間の空間化批判』勁草書房(2019年)、森田邦久『時間という謎』春秋社(2020年)、A.ハート=デイヴィス『時間の図鑑』悠書館(2012年)等

## 履修上の注意事項

コメントシートを配布し、出欠をとります。

# 東京医科歯科大学全学共通科目履修規則

〔平成16年4月1日〕  
規則第217号

## （趣旨）

第1条 東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

## （授業科目の編成）

第2条 全学共通科目における授業科目は、次の4系をもって編成する。

- 自由教育講義系
- 自由教育実習系
- 自由教育セミナー系
- 基礎教育系

## （授業科目及び単位数）

第3条 前条の各系に属する授業科目及び修得すべき単位数等は、別表1に定めるとおりとする。

2 前項の授業科目及び修得すべき単位数等は、教養部教授会の意見を聴いて学長が定めるものとする。

## （1単位当たりの授業時間）

第4条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間
- (2) 実験及び実習については、30時間から45時間

2 前項の授業時間の設定においては、次の事項に配慮しなければならない。

- (1) 学習目標を十分に満たすこと
- (2) 履修時間及び自主的学修時間の確保

## （履修届）

第5条 学生は、別に定める授業科目の中から、履修しようとする授業科目を所定の期日までに届け出なければならない。

## （定期試験）

第6条 履修した授業科目については、試験を行う。

2 前項の規定にかかわらず、実験、実習を伴う授業科目又は試験を行うことが困難な授業科目等で、平常の学修の成果を評価して成績を与えることが適切と認められる場合には、試験によらず、指定した課題についての報告等をもって試験に代えることができる。

3 第1項の試験については、別に定める。

4 試験に合格したときは、所定の単位を与える。

## （学習の評価）

第7条 履修した授業科目の成績については、別表2により学習の評価を行う。

2 前項の規定にかかわらず、前条第2項に該当する授業科目のうち、第1項により難しい場合の学習の評価は、別表3により行う。

3 第1項及び第2項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。



4 教養部長は、学習の評価の結果を学生に通知する。

(再履修)

第8条 前条により、「不可」又は「不合格」の評価を得た授業科目については、所定の手続きにより再履修することができる。

(懲戒)

第9条 教養部長は、懲戒に相当すると思われる行為があったときは、学則第58条に定める懲戒の手続きをとるものとする。なお、手続きについては別に定める。

(進級要件)

第10条 別表1(1)に定める単位をすべて修得しなければ、第2学年に進級することができない。

2 別表1(2)に定める単位をすべて修得しなければ、第3学年に進級することができない。

3 別表1(3)に定める単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することができない。

4 別表1(4)に定める単位をすべて修得しなければ、卒業することはできない。

5 全学共通科目の単位の認定については、教養部教授会の議を経て、教養部長がこれを行う。

6 教養部長は、前項の認定の結果について各学部長に通知する。

7 2年以内に、別表1(1)に定める単位をすべて修得することができない学生は、特別に考慮すべき事由のない限り、学則第33条第1項第1号に規定する「成業の見込みがない」者として、同条により除籍する。ただし、当該期間には、休学の期間を算入しない。

8 前項の場合において、大学は、教授会等における審議を行う前に、除籍の対象となる学生に対し、書面又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。ただし、当該学生が、弁明の機会を与えられたにもかかわらず、正当な理由なく欠席し、又は文書を提出しなかった場合は、この権利を放棄したものとみなす。

9 第7項の場合において、教授会等における審議の後、当該学生から不服が申立てられた場合で、教養部長が再審議の必要性があると判断したときは、教養部長は、教務委員会等に再度審議を行わせるものとする。

(歯学部口腔保健学科編入学生の履修)

第11条 学則第18条及び第18条の2に定める歯学部口腔保健学科編入学生の全学共通科目に係る履修については、別に定める。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、全学共通科目の履修に関する必要な事項は、教養部教授会が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学の在学者となったもの(以下「在学者」という。)及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成18年3月31日規則第10号)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 平成18年3月31日において、現に本学に在学する者(以下「在学者」という。)および平成18年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表1の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成20年3月31日規則第8号)

1 この規則は、平成20年4月1日から施行する。

- 2 平成20年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成20年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（1）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年3月19日規則第11号）

- 1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（1）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成22年3月30日規則第40号）

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表1、別表2及び別表3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成23年3月4日規則第14号）

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成28年2月25日規則第3号）

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成28年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成28年3月4日規則第12号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月31日規則第72号）

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において現に本学に在学する者が履修した科目の学習の評価については、次のとおり読み替えるものとする。

評価区分	評価
秀	A+
優	A
良	B
可	C
不可	D

附 則（平成29年3月31日規則第53号）

- 1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成29年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成30年5月1日規則第31号）

この規則は、平成30年5月1日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（令和元年10月23日規則第108号）

この規則は、令和元年10月23日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則（令和2年3月31日規則第138号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年3月31日規則第51号）

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

- 2 令和3年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者という。」）及び令和3年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者の修得すべき単位数については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和 年 月 日規則第 号）

- 1 この規則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和4年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び令和4年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者の修得すべき単位数については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1  
(1)第 1 学年

授 業 科 目			修 得 す べ き 単 位 数					備 考	
			医 学 部			歯 学 部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学 専攻	検査技 術学専 攻		口腔保 健衛生 学専攻		口腔保 健工学 専攻
自由教育講義系	人文科学・社会科学	哲学Ⅰ						選択科目 1科目 2単位	
		哲学Ⅱ							
		倫理学Ⅰ							
		倫理学Ⅱ							
		心理学Ⅰ							
		心理学Ⅱ							
		宗教学Ⅰ							
		宗教学Ⅱ							
		芸術Ⅰ							
		芸術Ⅱ							
		歴史学AⅠ							
		歴史学AⅡ							
		歴史学BⅠ							
		歴史学BⅡ							
		民俗学Ⅰ							
		民俗学Ⅱ							
		科学史Ⅰ							
		科学史Ⅱ							
		文学AⅠ	8	8	8	8	8		
		文学AⅡ							
		文学BⅠ							
		文学BⅡ							
		法学Ⅰ							
		法学Ⅱ							
		政治学Ⅰ							
		政治学Ⅱ							
		経済学Ⅰ							
		経済学Ⅱ							
		社会学AⅠ							
		社会学AⅡ							
社会学BⅠ									
社会学BⅡ									
社会心理学Ⅰ									
社会心理学Ⅱ									
社会思想史Ⅰ									
社会思想史Ⅱ									
文化人類学Ⅰ									
文化人類学Ⅱ									

		Japanese Culture and Society I							
		Japanese Culture and Society II							
		グローバル教養科目(注1)							
		人文社会科学特論(注1)							
	自然科学	物理学入門	1 (注2)		1 (注2)	1 (注2)		選択科目	
		生物学入門							
		化学入門							
		数学Ⅰ	1		1	1		必修科目	
		物理学Ⅰ	1		1	1			
		数学Ⅱ	1 (注3)			1 (注3)		医学 科・歯 学科 は、選 択科 目。検 査技術 学専攻 は、必 修科 目。	
		物理学Ⅱ			1				
		統計学		1	1		1	必修科目	
		化学	2		2	2			
		化学基礎		1			1		1
		生物学	2		2	2			
		細胞生物学基礎		1			1		1
		人体の生物学基礎		1			1		1
自由教育実習系	外国語	英語	4	4	4	4	4	4	必修科目
		日本語(注4)							選択科目
		ドイツ語							
		フランス語	4	4	4	4	4	4	1科目 4単位
		中国語							
		スペイン語							
	自然科学	物理学実験	1			1			必修科目
		化学実験	1			1			
		生物学実験	1			1			
サイエンスPBL入門		1			1				

		科学基礎実験		1 (注5)	1		1 (注5)	1 (注5)	看護学専攻・口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻は、選択科目。検査技術学専攻は、必修科目。
		科学基礎演習							
		情報科学		1	1		1	1	必修科目
		情報処理	1			1			
	保健体育	スポーツ・健康科学	1	1	1	1	1	1	必修科目
		フィットネスマネジメント	1	1	1	1	1	1	
自由教育セミナー系	共通領域	共通領域セミナー科目	2	1	1	2	1	1	必修科目(具体的な科目名は、全学共通科目教育要項に定める。)
基礎教育系	共通領域	教養総合講座	1	1	1	1	1	1	必修科目
第1学年 小計			34	26	31	34	26	26	

(注)

- 1 詳細は、全学共通科目教育要項に定める。
- 2 医学部医学科、保健衛生学科検査技術学専攻及び歯学部歯学科の学生については物理学入門、生物学入門、化学入門のうちから1科目(1単位)を選択する。
- 3 医学部医学科及び歯学部歯学科の学生については数学Ⅱ、物理学Ⅱのうちから1科目(1単位)を選択する。
- 4 外国人留学生のみ履修できる。
- 5 保健衛生学科看護学専攻及び口腔保健学科の学生については科学基礎実験又は科学基礎演習のいずれか1科目(1単位)を選択する。

## (2)第2学年

授業科目			修得すべき単位数						備考
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻	口腔保健工学専攻	
基礎教育系	教養教育	生命科学基礎	2			2			必修科目
		主題別選択Ⅰ	1			1			
	連携教育	教養英語				4			
		情報科学演習				1			
		サイエンスPBL				1			
		生命科学(人体の生物学)				2			
		生命科学(生物物理化学)				2			
		人文社会科学総合講義				2			
		医療人間学概論(倫理学)		1					
		医療人間学概論(法学)		1					
		医療人間学セミナー		1					
第2学年 小計			3	3		15			

## (3)第3学年

授業科目			修得すべき単位数						備考
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻	口腔保健工学専攻	
基礎教育系	教養教育	主題別選択Ⅱ	1			1			必修科目
		主題別人文社会科学セミナー	2			2			
第3学年 小計			3			3			

## (4)第4学年

授業科目			修得すべき単位数					備考	
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻		口腔保健工学専攻
基礎教育系	連携教育	医療人間学概論(法学)			1			必修科目	
第4学年 小計					1				
全学共通科目 合計			41	30	33	53	27	27	

別表2

摘要	評価基準	評価	単位認定
第7条第1項に該当する授業科目	当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した	A+	合格
	当該科目の到達目標を全て達成した	A	
	当該科目の到達目標を概ね達成した	B	
	当該科目の到達目標のうち最低限を達成した	C	
	当該科目の到達目標を達成していない	D	不合格
	到達目標の達成度を評価できない	F	

別表3

摘要	評価基準	評価	単位認定
第7条第2項に該当する授業科目	当該科目の到達目標を達成している	合格	合格
	当該科目の到達目標を達成していない	不合格	不合格